

平成11年度
帰国研修員フォローアップチーム
報告書

—知的障害福祉—

平成12年3月

LIBRARY



J 1157529{7}

国際協力事業団
東京国際研修センター

平成11年度
帰国研修員フォローアップチーム
報告書
—知的障害福祉—

平成12年3月

国際協力事業団
東京国際研修センター



1157529(7)

序 文

本報告書は、国際協力事業団が実施している集団研修コース「知的障害福祉」に参加した帰国研修員に対するアフターケア事業の一環として、平成11年10月5日から同年10月16日まで、フォローアップ調査団をフィリピン、マレーシアの2カ国に派遣し、研修員所属機関、各関係機関への訪問ならびに帰国研修員との面談を通じ、研修効果の確認、評価、今後のニーズの調査の結果をとりまとめたものです。

本書により、当該分野における各国の実状、帰国研修員の活動状況および研修に係わる要望について、関係各位より深いご理解を頂き、同時に今後のよりよい研修コースの実施、運営の参考になれば幸甚と存じます。

なお、本フォローアップ調査の実施にあたり、多大な協力を賜った外務省、厚生省、(社)日本知的障害福祉連盟及び、現地において数々のご指導とご協力を賜ったJICA派遣企画調整員、帰国研修員ならびに関係機関各位に対し、心からお礼を申し上げます次第です。

平成12年3月

国際協力事業団
東京国際研修センター
所長 橋本 明彦



National Center for the Mentally Retarded
国立知的障害児者センター
(フィリピン)

居住施設の外観



ベッド等機材は揃っているが、スタッフ不足のため未だオープンできずにいる居室

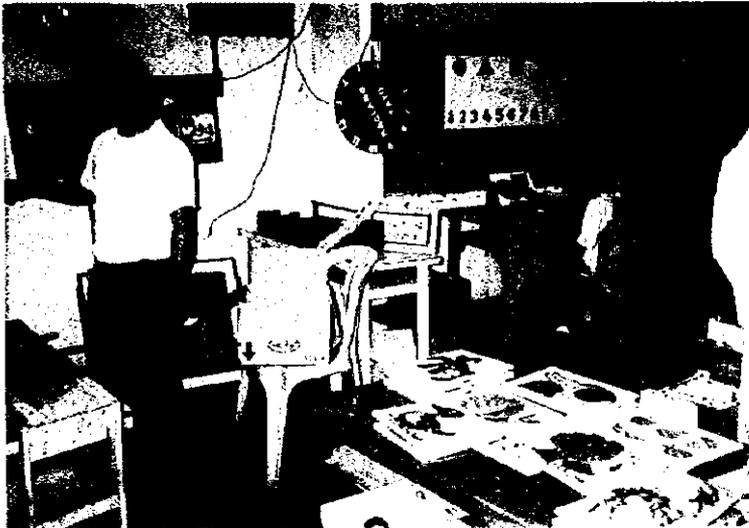


比較的広いプレイグラウンド



P. Burgos 小学校にて
特殊教育教師と
(フィリピン)

左端の女性が帰国研修員の事業を
引き継いでいる Ms. Cruzada



P. Burgos 小学校内に設置されている
知的障害児のための小規模作業所



帰国研修員が、日本で得た知識を活
かして所属先の小学校に設立した
ベーカリー



国家統一・社会開発省
社会福祉局にて(マレーシア)

左から3人目が91年度帰国研修員
Mr. Johari Saad
左から4人目が89年度帰国研修員
Ms. Kamaliah Hj. Ismail
右端の男性が久野研二企画調整員



セランゴール州社会福祉局にて
(マレーシア)

右端が90年度帰国研修員
Mr. Hj. Hamzah Hj. Ismail (現局長)



セランゴール州にある障害者リハビリテーション協会(NGO)の経営する知的障害児のための特殊教室
(マレーシア)

後列左から2人目の女性が原田真帆
JOCV 隊員



社会福祉局職員研修所にて
(マレーシア)

左から2人目が92年度帰国研修員
Ms. Rose Jacob
右端の男性が84年度帰国研修員
Mr. Rosman Khan Zainal Abidin Khan



Taman Sinar Harapan
(国立の知的障害児者入居施設)にて
入居者と(マレーシア)



Taman Sinar Harapan入居者による作
品:チャリティーバザールに商品と
して出品される



ヤアクブ・ラティフ中学校にて
(マレーシア)

右から2人目が96年度帰国研修員
Ms. Kamaliah Muhammad



サラワク州 Early Intervention
Program (EIP) センターにて
(マレーシア：サラワク州)

知的障害児親の会及び99年度帰国
研修員Mr. Gabriel Teo Ah Sah(右端)



ダウン症候群の幼児のEIP風景：
Educational Toyを使用してのプログ
ラム

目 次

序文 写真

1. 調査目的	1
2. 派遣国及び派遣期間	1
3. 調査団員構成	1
4. 調査方法	1
5. 帰国研修員人数	1
6. 調査日程	2
7. 訪問先、面会者	3
8. 各国の知的障害者福祉の概況	9
8-1 フィリピン調査概況	9
8-1-1 フィリピンの知的障害福祉	9
8-1-2 訪問による実態調査	10
8-1-3 知的障害者福祉分野における課題	13
8-1-4 研修効果に影響をおよぼす人事的要因	14
8-1-5 帰国研修員の活動状況	15
8-2 マレーシア調査概況	20
8-2-1 マレーシアの知的障害福祉	20
8-2-2 訪問による実態調査	21
8-2-3 知的障害者福祉分野における課題	24
8-2-4 研修効果に影響をおよぼす人事的要因	24
8-2-5 帰国研修員の活動状況	25
9. 今後の知的障害福祉コース	29
V. 添付資料	
1. 知的障害福祉コースの概要	35
2. 帰国研修員リスト	36
3. クエスチョネア集計表	38
4. 各援助機関による障害者福祉分野活動状況（フィリピンのみ）	51
5. 当該国での回収資料一覧	63
6. 議事録	108
7. 参考文献	134

1. 調査目的

本チームは、国際協力事業団が技術協力の一つとして実施している研修員受入事業のアフターケアの一環として派遣するものである。今回は、障害者福祉分野に関する集団研修のうち、「知的障害福祉コース」に関し、フィリピン、マレーシア両国において帰国研修員とその所属機関、及び関連施設を訪問、意見交換、面談等を行なった。

本チームの派遣を通して、上記コースの帰国研修員の動向、研修成果の活用度、本研修に対する要望、帰国研修員の直面する諸問題を把握、また両国の知的障害者福祉分野におけるニーズ等を調査し、今後の本邦研修カリキュラム編成等運営改善に役立てることを目的とする。

2. 派遣国及び派遣期間

派遣国：フィリピン、マレーシア

派遣期間：平成11年10月5日～同年10月16日

3. 調査団員構成

総括、技術指導

立場 正夫

国際協力事業団 東京国際研修センター 研修第一課 課長

技術指導

有馬 正高

(社)日本知的障害福祉連盟 会長

研修企画

鈴木 あゆ美

国際協力事業団 東京国際研修センター 研修第一課 職員

4. 調査方法

事前調査・現地調査双方において可能な限り広範な資料の収集・整理を行うとともに、帰国研修員へのクエスチョネアの送付・回収及び面談、所属機関、関係機関への訪問、関係施設の視察により調査を実施した。

5. 帰国研修員人数

フィリピン 8名

マレーシア 13名

6. 調査日程

日順	月日	曜	行程、訪問機関	調査内容
1	10/5	火	東京 → マニラ (JL741) JICA事務所	出発日 JICA事務所
2	6	水	国家経済開発庁訪問 National Center for Mentally Retarded, Department of Social Welfare Development訪問	技協窓口訪問 帰国研修員面談、関係機関訪問調査
3	7	木	Special Education Center (SPED)訪問 P. Burgos Elementary School訪問	関係機関訪問調査
4	8	金	Department of Education, Culture and Sports, National Capital Region (DECS-NCR) 帰国研修員面談 (杉レストラン) JICA事務所	関係機関訪問調査 帰国研修員聞き取り調査、 JICA事務所報告
5	9	土	マニラ → クアラルンプール (MH705)	移動
6	10	日	資料整理/打ち合わせ	資料整理、打ち合わせ
7	11	月	JICA事務所 Social Welfare Department 当該分野JICA専門家面談 Public Service Department, Training Div.	JICA事務所 対象分野政府窓口機関訪問 当該分野専門家面談 技協窓口機関
8	12	火	クアラ・クブ・バル訓練センター Taman Sinar Harapan, Kuala Kubu Bahru 文部省特殊教育局 Yaakub Latif Secondary School	訪問調査、帰国研修員面談 関係訪問調査 対象分野政府窓口機関訪問 関係機関訪問調査
9	13	水	クアラルンプール → クチン (MH2610) サラワク社会福祉局長訪問 サラワク社会福祉委員会 (NGO) 訪問 当該分野協力隊員面談	移動 関係政府機関訪問、帰国研修員面談 関係機関 (NGO) 訪問 当該分野協力隊員面談
10	14	木	EIP Center (早期指導プログラム) 訪問 クチン → クアラルンプール (MH2683)	訪問調査、関係機関訪問 移動
11	15	金	セランゴール州社会福祉局訪問 当該分野協力隊員面談 Rumah Isanlaj (リハビリテーション協会訪問) JICA事務所報告 クアラルンプール → 東京 (JL724)	訪問調査、帰国研修員面談 当該分野協力隊員面談 関係機関 (NGO) 訪問 JICA事務所報告 移動
12	16	土	東京着	帰国

7. 訪問先、面会者

フィリピン

- (1) JICA事務所 10/5 (火) 16:00
面会者
有本 祐子 職員
・ フォローアップの趣旨説明、日程、調査内容確認等
- (2) 国家経済企画庁 10/6 (火) 10:30~11:30
National Economic and Development Authority (NEDA)
面会者
Ms. Carmencita Juan Guiyab (Executive Officer, Special Committee on Scholarships)
・ 知的障害福祉分野の対外資金援助状況、研修員選考等について聞き取り調査
- (3) 国立知的障害児者センター 10/6 (火) 14:00
National Center for the Mentally Retarded (Elsie Gaches Village),
Department of Social Welfare and Development (DSWD)
面会者
Dr. Bonisusa B. Pagaduan (Head, Officer in Charge)
Ms. Angelina C. Vidar* (Former Head, Social welfare Officer V, *'80 ex-participant)
・ 知的障害福祉分野の施策、取組状況、研修員選考方法、及び研修に対するニーズと研修成果の活用について聞き取り調査
- (4) 特殊教育センター (St. Ana小学校) 10/7 (水) 9:00
Special Education Center (SPED), St. Ana Elementary School
面会者
Mr. Frank B. Marcelino (Principal IV, DECS - Manila)
・ 知的障害福祉分野の取組状況視察、及び研修に対するニーズについて聞き取り調査
- (5) P. Burgos小学校 10/7 (水) 14:00
P. Burgos Elementary School
面会者
Ms. Margie E. Cruzada (Livelihood Teacher)
Ms. Trinidad Palomo (MC Teacher Kinder Class)

Ms. Julieta S. Guevara (Assistant to the principal)

- ・ 知的障害児に対する特殊教育の取組状況視察及び研修に対するニーズと研修成果の活用について聞き取り調査

(6) 教育・文化・スポーツ省－National Capital Region 10/8 (木) 9:00

Department of Education, Culture & Sports - National Capital Region (NCR)

面会者

Dr. Pablo M. Antopina (Director IV, CESO III)

Dr. Dinah E. Mindo (Assistant Regional Director)

Mr. Perlita M. Jamoralin (Chief, Special Education Unit)

Ms. Aida S. Damian (Education Supervisor II in charge of Mental Retardation)

- ・ 政府機関の知的障害福祉への取組状況視察及び研修に対するニーズについて聞き取り調査

(7) 帰国研修員個別面談 10/8 (金) 12:00

Ms. Angelina C. Vidar* (*'80 ex-participant)

- ・ クエストヨネアを基に帰国後の研修成果活用、阻害要因、或は今後のニーズ等について聞き取り調査

(8) JICA事務所 10/8 (金) 16:30

有本 裕子 職員

- ・ 調査結果報告

マレーシア

(1) JICA事務所 10/11 (月) 9:30

寺西 義英 次長

吉田 ひとみ 職員

- ・ フォローアップの趣旨説明、日程、調査内容確認等

(2) 国家統一・社会開発省社会福祉局 10/11 (月) 10:30

Department of Social Welfare, Ministry of National Unity and Community Development

面会者

Mr. Hajjah Shamsiah Abdul Rahman (Deputy Director General)

Ms. Kamaliah Hj. Ismail* (Marang, Terengganu, *'89 ex-participant)

Mr. Johari Saad* (Tg. Rambutan, Perak, *'91 ex-participant)

- ・ 国家施策の観点からの知的障害福祉分野の計画、取組状況、研修ニーズについて聞き取り調査
- ・ クエスチョネアを基に帰国後の研修成果活用、阻害要因、或は今後のニーズ等について聞き取り調査

(3) 当該分野 J I C A 企画調整員面談 10/11 (月) 12:00

Mr. Kenji KUNO, JICA Expert on Social Development & Welfare

久野 研二 氏 J I C A 企画調整員 (障害者福祉)

- ・ マレーシアにおける当該分野の概況聞き取り調査

(4) 総理府人事院 10/11 (月) 15:30

Training Div., Look East Policy Section, Public Service Department

面会者

Mr. Khairuddin Bin Mat Yunus (Principal Assistant Director, Look East Policy)

Ms. Junaidah Kamarruddin (Assistant Director, Look East Policy)

- ・ 知的障害福祉分野の対外資金援助状況、研修員選考等について聞き取り調査

(5) 帰国研修員所属先訪問・面談 (社会福祉局職員研修所) 10/12 (火) 10:00

Welfare Training Institute, Kuala Kubu Bahru, Social Welfare Department

面会者

Mr. Rosman Khan Zainal Abidin Khan* (*'84 ex-participant)

Mr. Mohd Zon Mat Salleh* (*'85 ex-participant)

Ms. Rose Jacob* (*'92 ex-participant)

- ・ 社会福祉局職員研修所の視察
- ・ クエスチョネアを基に帰国後の研修成果活用、阻害要因、或は今後のニーズ等について個別に聞き取り調査

(6) Taman Sinar Harapan, Kuala Kubu Bahru, Social Welfare Department

10/12 (水) 11:00

Ms. Hja Fatema (Director)

- ・ 政府機関としての知的障害者施設の取組み状況視察

(7) 教育省特殊教育局

10/12 (火) 14:30

Special Education Department, Ministry of Education

面会者

Mr. Haji Ahmad Bin Mohamad Said (Deputy Director General)
Ms. Hajiah Habibah Abd. Aziz (Director, Training and Support Services Division)
Ms. Kamaliah Muhammad* (**96 ex-participant)

- ・ 知的障害者に対する教育分野の施策、取組状況及び研修に対するニーズについて聞き取り調査

(8) ヤアクブ・ラティフ中学校 10/12 (火) 15:30

Yaakub Latif Secondary School
面会者

Mr. David Khoo Khiam Soo (Assistant Director, Planning and Research Division, Special Education Department, Ministry of Education)

他、特殊教育教師数名

- ・ 知的障害者に対する教育取り組み状況の視察及び、研修に対するニーズについて聞き取り調査

(9) サラワク州社会福祉局 10/13 (水) 14:00

Social Welfare Dept., Sarawak
面会者

Mr. Annuar Hj. Mohd Nor (Director)

Mr. Gabriel Teo Ah Siah* (Social Welfare Officer, **99 ex-participant)

- ・ サラワク州における、知的障害者福祉分野の施策、取組状況、研修員選考方法、及び研修に対するニーズについて聞き取り調査

(10) サラワク州社会福祉協議会 (NGO) 10/13 (水) 15:00

Social Welfare Council of Sarawak
面会者

Mr. Donald Teo Boon Heng (Executive Secretary)

- ・ 知的障害者に関するNGO団体の現況及び取り組み状況について聞き取り調査

(11) 当該分野青年海外協力隊面談 (CBRセンター) 10/13 (水) 15:00

Community Based Rehabilitation (CBR) Centre

大竹 雅子 青年海外協力隊員 (作業療法士)

- ・ 当該分野NGOに所属する協力隊員の知的障害者福祉への取組状況視察及び、研修に対するニーズについて聞き取り調査

- (12) E I P (早期指導プログラム) センター 10/14 (木) 10:00
 Early Intervention Program (EIP) Centre : 学齢期前の通所療育施設
 面会者
 Mr. Gabriel Teo Ah Sah* (Social Welfare Officer, *'99 ex-participant)
 ・ 知的障害児の早期統合教育の取組状況視察及び研修に対するニーズについて聞き取り調査
- (13) セランゴール州社会福祉局 10/15 (金) 9:00
 Social Welfare Department, Selangor
 面会者
 Mr. Hj. Hamzah Hj. Ismail* (Director, *'90 ex-participant)
 ・ セランゴール州における、知的障害者福祉分野の施策、取組状況、研修員選考方法、及び研修に対するニーズについて聞き取り調査
- (14) 当該分野青年海外協力隊面談 (セランゴール州社会福祉局) 10/15 (金) 9:00
 Social Welfare Department, Selangor
 原田 真帆 青年海外協力隊員 (作業療法士)
 ・ 当該分野政府機関に所属する協力隊員の知的障害者福祉への取組状況視察及び、研修に対するニーズについて聞き取り調査
- (15) 障害者リハビリテーション協会 (セランゴール州) 10/15 (金) 10:30
 Rumah Isaniah, Society for the Rehabilitation of the Disabled
 面会者
 Mr. Tn. Hj. Yusuf Mohd Idns (General Manager)
 Ms. Zaitoni Azlee Merican (Manager)
 ・ 当該分野NGOの知的障害者福祉への取組状況視察及び研修に対するニーズについて聞き取り調査
- (16) JICA事務所 10/15 (金) 18:30
 岩波 和俊 所長
 吉田 ひとみ 職員
 久野 研二 JICA企画調整員 (障害者福祉)
 ・ 調査結果報告

略 語 表

フィリピン

N E D A : National Economic and Development Authority

N C M R : National Center for the Mentally Retarded (Elsie Gaches Village)

D S W D : Department of Social Welfare and Development

D E C S : Department of Education, Culture & Sports

マレーシア

D S W : Department of Social Welfare

P S D : Public Service Department

その他

C B R : Community - Based Rehabilitation

(地域に根ざしたりハビリテーション)

E I P : Early Intervention Program (早期統合教育プログラム)

A D L : Activity of Daily Living (日常生活動作)

O T : Occupational Therapist (作業療法士)

P T : Physical Therapist (理学療法士)

S T : Speech Therapist (言語聴覚士)

8. 各国の知的障害福祉の概況

8-1 フィリピン調査概況

8-1-1 フィリピンの知的障害福祉

フィリピンにおける障害者福祉は、社会福祉省（Department of Social Welfare and Development：以下DSWD）の中にある障害者福祉局（Bureau of Disabled Persons Welfare）が担当している。

同国社会福祉省の知的障害者への取り組みは、身体障害者に対する取り組みに比べて未整備であり、同省の下にある国立の知的障害者収容施設である国立知的障害児者センター（National Center for the Mentally Retarded, DSWD：Elsie Gaches Village）が唯一の具体的サービスである。しかし、同センターは恒常的にフィリピン全国から多数の入所申請を受けているにも拘わらず、サービス供給のための人材不足等により全てのニーズに対応できていないのが現状である。

知的障害者の教育に関しては、教育・文化・スポーツ省（Department of Education, Culture & Sports：以下DECS）が担当しており、公立の小・中学校に普通学級・特殊学級を併設し比較的軽度の知的障害児者を特殊学級にて教育し、定期的に普通学級の生徒との交流も行っている。知的障害児者教育に携わる特殊教育教師の抱える課題としては、卒業後の進路であり、知的障害児者の就労率が非常に低いことである。

知的障害者の医療に関しては、診断及び各種療法士（OT¹¹¹、PT¹¹²、ST¹¹³等）の育成を保健省（Department of Health）が担っている。しかし、知的障害児者に関連する各省（特に社会福祉省）からの療法士確保への要望が高いにも関わらず、十分な数の療法士が育成されておらず、かつ保健省内でも療法士の数が不足している。

知的障害者の就労に関しては、労働・雇用省（Department of Labor and Employment：以下DOLE）では、現在まで知的障害児者のみを対象とした事業を行っておらず、福祉関係者・教育関係者の両方から、今後の労働・雇用省の活躍が期待されている。

以下、同国の知的障害児者に関する各分野の関連機関を訪問して行った実態調査結果である。

¹¹¹ OT = Occupational Therapist 作業療法士：身体障害者や知的障害者、精神障害者を対象に、医師の指示のもと、各種作業を通じ、心身の機能や社会復帰に不可欠な適応能力の回復を図る専門職。（出典：「社会福祉基本用語集」ミネルヴァ書房）

¹¹² PT = Physical Therapist 理学療法士：身体障害者を対象に、医師の指示のもとでリハビリテーションを行い、日常生活を送るうえで必要な基本的な動作能力の回復を図る専門職。（出典：同上）

¹¹³ ST = Speech Therapist 言語聴覚士：音声機能や言語機能、聴覚に障害のある人を対象に、その昨日の維持・向上を図るため、言語などの訓練、またはこれに必要な検査や助言、指導、その他の援助を通じて言語上の障害の軽減を図る国家資格。（出典：同上）

8-1-2 訪問による実態調査

1) 知的障害施設

・ Elsie Gaches Village 国立知的障害児者センター

社会福祉開発省 (Department of Social Welfare and Development) の下にあり、唯一の国立の知的障害施設である。その始まりは、国立の障害施設 Welfareville Institution の C 棟であったが、1964 年 2 月に現在の場所に移転した。16 ヘクタールの土地を提供した Samuel Gaches 夫人の名 Elsie をとり、Elsie Gaches Village と命名された。現在は National Center for the Mentally Retarded としても知られている。

10 月 6 日午後、同センターを訪問して Dr. B.B. Pagaduan 所長 (精神科医師、DSWD 国家公務員)、Ms. A.C. Vidar (現 Marillac Hills - DSWD 所管の女性保護施設 - 所長 / 1980 年度帰国研修員) から説明と案内を受けた。

居住部分の収容能力は 100 名であり、知的障害児者のなかでも孤児、捨て子、虐待を受けている人などに限って全国から引き受けている。マニラ周辺に住む人は原則としてセンターに直接来所して申し込み、マニラ以外の住民については、次のような書類 (1) 地区ソーシャルワーカーのケーススタディ報告、(2) 知的障害についての精神科医の証明、(3) 心理学的評価、(4) 医学的な要約など) を添えて手紙で申し込むことができる。しかし、長期の入居待機者は常に多いとのことである。

その他、週 5 日間同センターに居住し週末にはマニラ近郊の家族と過ごすサービス、施設の近くに住む人のためのデイケア、作業所などを用意し、現在は 500 名以上に対応しているという。遠隔地に住む両親の希望によっては後見人をつけることも支援し、また研修機能として、OT、その他の専門家、家族等への数日間の講習を行っている。訪問時にも講習風景を見学することができた。

施設内には、囲いのある重度棟の他に、脳性麻痺等の運動障害が合併した知的障害児者 (日本でいう重症心身障害に近い状態) のための、ベッドと車椅子を備えた棟 (15 名づつ 2 棟) なども整っていた。この重症心身棟は、日中 4~5 人の看護婦、OT の学生、ボランティアなどが生活を支援している。病棟の看護婦の 1 人に話を聞くと、1 人の食事介護に 30 分以上を要し、深刻な人手不足であると訴えていた。

現在、国際援助機関の寄付によって、より多くの知的障害児者を収容すべく、ベッドを備えた新しい居室が用意出来ているとのことであるが、同センター所長の話によると、新たに増加するベッド数分の知的障害児を介助する人材が確保できないため、現在の収容人数の枠を広げられることができないとのことである。入居希望者が多い中、建物、ベッドが用意出来ているのにも拘わらず、開設できないのであり、深刻な人手不足が問題点として挙げられた。また、医療的な問題に関しては、同センターには 3 人の勤務医師がおり、緊急時にはマニラ地区の総合病院に搬送することになっており、そのための寝台車が備え

られている。しかし、日本と同じく重症心身障害者の死亡はしばしばあるとのことである。

知的障害者に合併する諸問題への取り組みとしては、自閉症、てんかん、脳性麻痺、整形外科的障害、聴覚障害、発語不能、視覚障害、情緒障害などに対応している。しかし、たとえば、自閉症に対しては、プレイセラピー（行動療法）が主体であり、TEACCHプログラム⁴⁴等の話題はだされなかったので一般化していないと考えられる。所長は精神科医であるが、その意見として、フィリピンには自閉症を扱える児童精神科医はほとんどなく、もっと多くの小児科医が関与して欲しいと述べていた。

最後に福祉的な面について、Ms. Vidar（社会福祉局からの唯一の研修員）より、フィリピンでは知的障害者の大多数が家族と生活しているにも拘わらず、家族への支援が組織化されていないことを、同国の抱える問題点として提示された。また、同人は社会福祉局職員として多くの社会的弱者を担当しているが、解決策としてElsie Gachesのような大規模施設への収容は個人的には賛成はできないと述べた上で、フィリピンにはまだグループホームがなく、特に問題を抱えている母子家庭などの知的障害児に関しては他に方法もないため、同センターに送らざるを得ないケースも時々あると、話していた。

2) 特殊学級併設校

(a) Special Education Center, Sta. Ana Elementary School

(b) P.Burgos Elementary School

フィリピンからの研修員は1981年から1990年にかけてマニラの教育関係者が続いたため、知的障害学級を併設する公立学校である上記2校を訪問した。特にP.Burgosに勤務していた研修員が3名おり、その活動を知ることにも努めた。

帰国研修員は既に在籍していなかったため、両校の特殊教育関係教師と面談した。

(a) については校長のMr. F.B. Marcelo（文部省による神戸大学留学経験者）、(b) についてはMs. M.E. Cruzada, Ms. T.Palomo, Ms. J.S. Guevaraの3人の教師によって案内と概況説明を受けた。

2公立校と日本の公立校との相違点および類似点と思われたことを要約すると以下の通りである。

(1) 相違点と思われたこと

- a. 全生徒数が約4000名および5000名と非常に多い。そのなかで、普通学級、特殊学級とも7時半に始まる午前組と正午過ぎに始まる午後組の2部制をとっている。
- b. 特殊学級には、知的障害（Mentally Challengedと称している）の程度別教室のほか

⁴⁴ TEACCHプログラム：Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped Children（自閉症及び近縁のコミュニケーション障害児の治療と教育）の略語であり、1966年以來米国North Carolina州において全州規模で、幼児期から成人期に至るまで一貫性をもって系統的に実施されている総合療育プログラムである。（「発達障害医学の進歩No.1」診断と治療社）

- に、視覚障害、聴覚障害、ペッドを備えた運動障害等のクラスが含まれている。
- c. 特殊学級の教室と一般学級の教室は別棟になっているが、運動場は共有している。特殊教育棟の一部に、一般よりすすんでいる児童(differently giftedまたはaccelerated childrenと称している)の教室がある。
 - d. 特殊学級の学年は、年齢別ではなく能力(grade)別である。グレードが進めばそれに相当する一般の学級に編入することができる。20歳を過ぎている知的障害者が小学校クラスに編入することもあるという。他校に移ることもあるが、その際は特殊学級と普通学級の教師同士が話し合っで決めるという。
 - e. 特殊学級のクラスの入口のドアに、そのクラスを担当する教師の専門的経歴(Teachers profile)として教師資格、特殊教育の専門性、勤務年数などが張り出してあった。教師と児童の割合としては、10人~15人に対して教師1名程度である。
 - f. 入学前の早期教育に着手している。また、卒後の未就職者のための職業訓練のために、校内に授産所または福祉工場のような部屋を設置しており、親をスタッフとして起用するなどして活動を行っている。両校の教師とも人的物的資源、機材の不足を述べていたが、生徒が社会で生活する際の福祉的資源や支援体制が不十分である現状に対し、教育がその分野まで担うのだという志気は日本にも劣らないように感じられた。
 - g. 養護高校に相当するものはない。
 - h. 特殊教育のクラス担任の教師は女性が多い。さらに、米国やカナダに移住する人も少なくないようである。

(2) 類似点と思われたこと

- a. 福祉施設(Elsie Gaches等)の中の児童の教育にも特殊教育教師が参加している。
- b. 障害別のクラス編成である。
- c. 教師の養成に専門的コースが用意されている。
- d. 児童生徒の就職が困難であり、卒業後の進路や就職についての責任感が強い。
- e. 自閉症への取り組みが注目され、教師への講習が大きなテーマとなっている。
- f. 教育の方向としては、メインストリーム、統合を目指している。
- g. 特殊学級の教育方針の立案について、その地区の教育局の方針が反映されている。首都圏の特殊教育に関していえば、制度的にはかなり整っており、公立学校の特殊教育教師の志気もかなり高いと感じられる。

・研修成果の活用 (P.Burgos Elementary Schoolでの聞き取り調査)

- (1) Ms. Erlinda D. Elamparo (83年度) は、帰国後すぐに海外へ移った模様。Ms. Margie E. Cruzadaが83年に同校へ来たときにはすでに同校にいなかったとのことである。

(2) Ms. Erlinda A. Layco (87年度) は、帰国後数年間は同校で働いていたが、定年退職し、後に海外へ移ったとのこと。

(3) Ms. Maria Clara V. Labarda (90年度) は、帰国後同校に戻り、数年間のうちに、知的障害者によるベーカリーショップ開設を計画した。計画後、機械導入に関しては国内外のスポンサーを求め、AMEX (米国) から機材の寄贈を得ることとなったが、機械が来る前に、同校特殊教育教師であるMs. Margie Cruzadaに実行を委ね、フィリピンを離れた。

現在、同ベーカリーショップでは、一日2100個作って市内の2つの学校に納品している。ここでは、生徒(主に高学年)の他に、卒業後就業できずに戻ってきている成人の知的障害者も働いており、毎週少しだが給料も与えられている。

8-1-3 知的障害者福祉分野における課題

フィリピンは子どもの比率の高い国である。国としてもストリートチルドレンが大きな問題になっているという。学校でも福祉施設でも指導的立場にある女性の比率が非常に高く、同分野における女性専門家達の果たす役割は大きい。しかし、学校でも福祉施設でも人的資源の不足と、予算の乏しさによる機材の補充の困難が共通の問題とされていた。これらの状態が持続すればいずれは彼等の意欲を失わせることになるだろう。本コースの帰国研修員が意欲をもって現場に復帰した後、計画の途中で海外に流出する傾向があるのもこれと無関係ではないと考えられる。

また、社会福祉局からの研修員の帰国後は、担当は知的障害分野になるとは限らず、日本の省庁内と同じように異動が多い。フィリピンでは他の分野の福祉的問題を多く抱えているので、社会福祉を専攻した人材のなかで知的障害者の生活を支える仕事に専念できるのは非常に僅かということが言えるかもしれない。

障害者福祉については、国家的規模では全国障害者福祉協議会 (National Committee for Welfare of Disabled Persons) があり、知的障害もその一部としてMagna Cartaの制定に関与している。また、知的障害の団体としてはPhilippines Association for the Mentally Retarded (PAMR) があり、アジア精神遅滞連盟の加盟団体となっている。PAMRの存在について面談した人達に質問したが、福祉関係者は知らない人達が多く、一方、特殊教育行政の関係者および教師達の多くはよく知っていた。PAMRの会長が教育庁に所属し、2001年にマニラで精神遅滞アジア会議を主催することも承知していた。同国における本コース参加研修員に教師が多かったことも、この国における知的障害対策の専門家集団として教師と教育行政が主要な役割を演じてきたことと関係があるのであろう。

以下、各訪問先の把握している今後の課題・要望である。

・教育を受けた知的障害児の卒業後の進路：

特殊教育を実施している公立学校では、知的障害児の学校教育に関するカリキュラム、教師等は充実していると考えられるが、卒業生の多くは就学できず、学校に戻ってくる事が多く、教育を受けた知的障害児の卒後の進路については課題が多い。DECSおよび各学校では、特殊教育学級に所属する知的障害児の卒業後の進路のために“Livelihood Program”として、パン作り、木工作業等の職業訓練を実施しているが、十分な機材、材料を確保できない状況にある。特殊教育学校における職業訓練という機能の充足が今後の課題となっている。

・知的障害児者福祉に携わる人材育成

福祉施設（National Center for Mentally Retarded）では、500人以上の知的障害者（ほとんどが孤児）の世話をするスタッフ、ソーシャルワーカー等の人材が不足している。これらの人材育成を行うことが今後の課題である。

・成人知的障害者のための職業訓練センター

DECS-NCRでは、特殊学級を卒業した知的障害者のための職業訓練が欠如していることが、知的障害者の就業を阻害する要因の一つと考え、卒後の（成人した）知的障害者のための職業訓練センターを設立することが今後の課題と考えている。また、本研修コースへの参加に関しては、特殊学級の教師の場合は、帰国後に海外流出してしまい技術が残されないという問題があるとのことで、コース対象者は、特殊教育教師の訓練／特殊教育カリキュラム作成等の任務にあるSpecial Education Supervisorの参加が効率的であるとの意見であった。

8-1-4 研修効果に影響をおよぼす人事的要因

○研修候補者の募集・選考方法

国家経済企画庁（NEDA）では本コースGIを受け取ると、各関係機関（DSWD、DECS等）に配布し、内部選考を行った上で、正式に候補者を推薦している。ただし、各関係機関にGIが配布された後は、知的障害に関する各種サービスを行っている実施機関にはインフォームされないようである。

今回の協議においては、平成11年度をもってコース開始後20年を経る「知的障害福祉」に関し、平成12年度からは、一カ国二名受け入れることを検討していることを説明し、そのことについてもヒアリングを行った。

以下、NEDAからの聞き取り調査の概要である。

・応募要項 (GI) の配布先

社会福祉省

Department of Social Welfare and Development (DSWD)

全国障害者福祉協議会

National Council for the Welfare of Disabled Persons (NCWDP)

全国障害者団体連合

Katipunan ng Maykapansanan sa Pilipinas Inc.(KAMPI)

教育・文化・スポーツ省

Department of Education, Culture & Sports (DECS)

P.Gomez Elementary School, P. Burgos Elementary School

(DECS所管の特殊教育併設の公立校) 等

私立の特殊教育学校

・帰国後の評価について

Post Training Reportとして、研修へのRecommendation等を提出させる。重要なサジェスチョンがあれば、JICAに送付する、又は、二国間協議の際の議題等にのせる。

・研修ニーズについて

特に知的障害者への特殊教育分野でのニーズが高い。自閉症児者への教育ニーズは最近認められたばかりであり、今後は特に自閉症分野の研修ニーズが高いだろう。

・一カ国二名研修員を呼ぶことについて

一カ国2名受け入れることには、賛成であり、研修効果が高くなることが予想される。異なる職種の研修員を選ぶことについては、GIに具体的な職種、例えばdoctor, pediatrics, nurse等というように明記すれば、もちろん可能である。

8-1-5 帰国研修員の活動状況

今回の調査では、全帰国研修員8名中3名の研修員との面談を実現または、情報を収集した。現地での情報によると、3名はすでに退職しており、2名については、所属先に連絡してもその後の消息がつかめなかった。

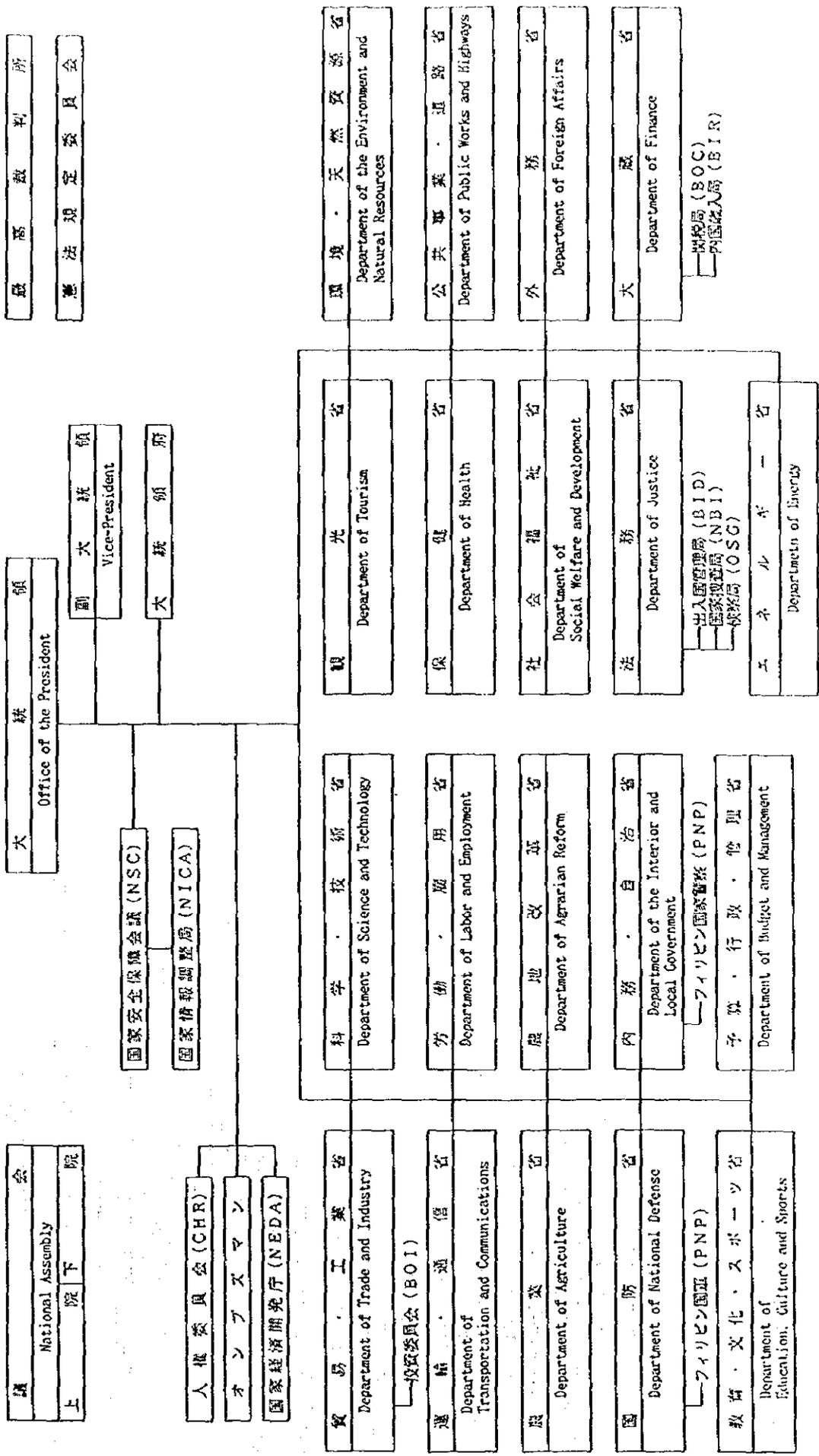
情報を得た研修員3名のうち1名(来日時は社会福祉局職員、国立知的障害児者センター長)は、帰国後数年間は同じ所属先で本コースで得た知識・技術を基に職業訓練プログラム等を導入したが、人事異動のため、同局ストリートチルドレン担当を経て現在は虐待された女性(成人、児童)のための保護センターに勤務している。人事異動により、部署は直接的に知的障害福祉に関わる部署から離れてしまったが、同人は本コース参加に

より、同分野の特殊技能保持者として認められており、同局所管の機関等で新規に知的障害児者のプログラムを作成する際には、同人が顧問となっている。また、知的障害児者は、社会的弱者（ストリートチルドレン、虐待を受けた女性等）の中に常に複数名含まれており、社会福祉局職員として、知的障害福祉分野の知識を持つことは、非常に有益であることが確認された。

特殊教育教師である1名は、現在も同じ所属先（特殊学校）で知的障害児に対する教育を行っており、本コースで得た知識・技術を基に、知的障害児のための所得創出・作業療法としてベーカリーショップを開設し、継続させている。同ベーカリーショップ設立は、帰国研修員のフォローアップとして、本コース受入先である（社）日本知的障害福祉連盟が独自のルートで国内から基金を募り、実現させた例の一つである。

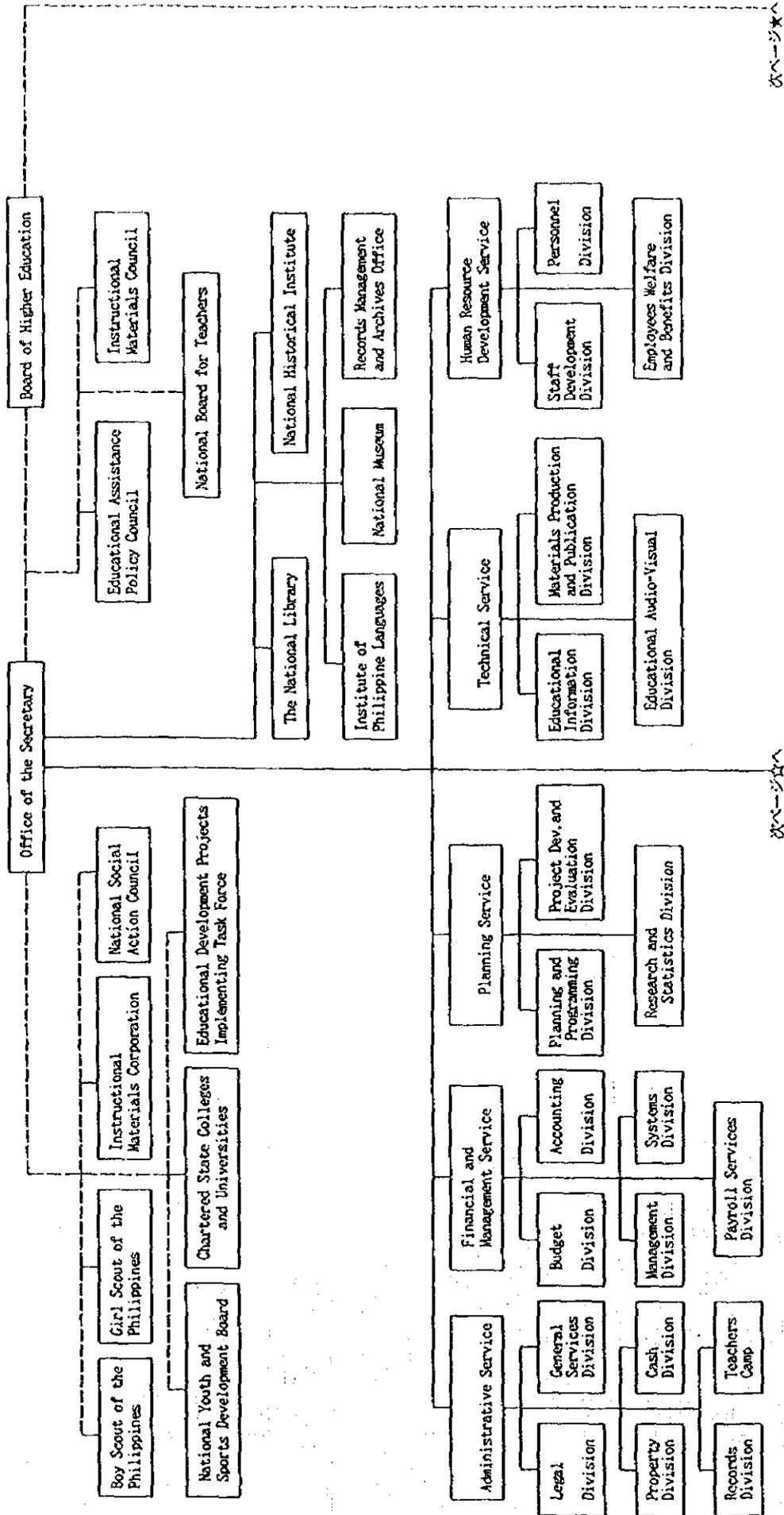
また、現在は海外に移住しているが、元の所属先へ訪問した際の聞き取り調査によると、特殊教育教師である1名は、やはり帰国後、校内にベーカリーショップを設立する計画を立案し、民間会社等からの資金（寄付金）調達に奔走し、実現のための布石を打った後、実現前に計画を同僚の教師に託し海外に移住してしまったとのことである。ただし、海外に渡った後も後任の教師と密に連絡を取り合い、現在も同人の同校に対する協力は続いており、将来的には知的障害児のための学校をつくりたいと語っているらしく、同分野への関心の高さがうかがえた。

(1) 國家行政系統組織圖 (フィリピン) - 1995年7月現在 -



(15) 教育・文化・スポーツ省組織図 (フィリピン) - 1992年12月現在 - その1

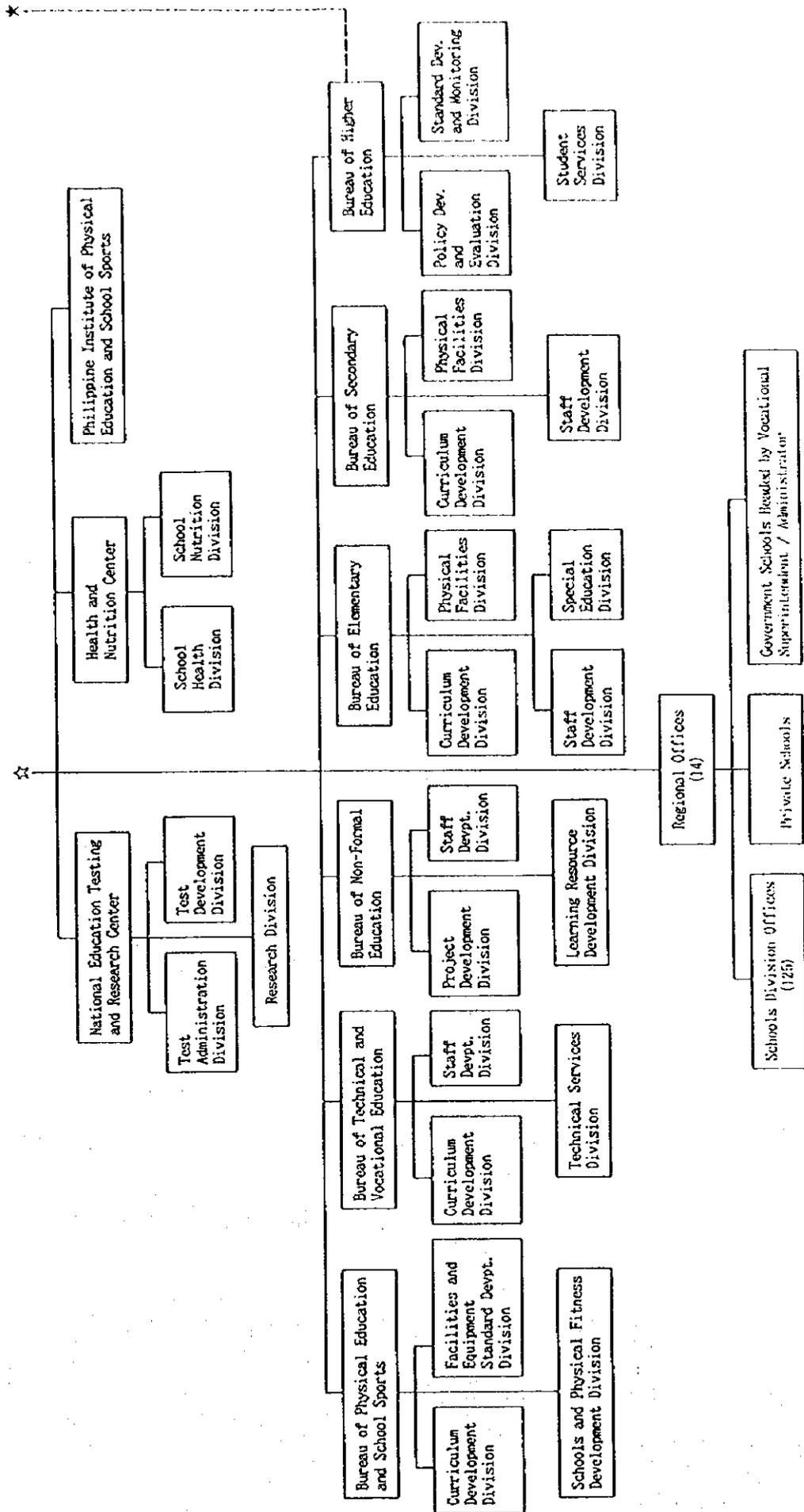
Department of Education, Culture and Sports (DECS)



次ページへ

次ページへ

(15) 教育・文化・スポーツ・保健組織図 その2



8-2 マレーシア調査概況

8-2-1 マレーシアの知的障害福祉

マレーシアにおける障害者福祉は、国家統一・社会開発省の社会福祉局（Social Welfare Department, Ministry of National Unity and Community Development）が担当しており、知的障害福祉も同局が管轄している。同局は障害者福祉サービスの戦略として、1984年からCommunity-Based Rehabilitation（CBR）⁴¹を展開しており、知的障害者についても同戦略を推進している。特殊教育は教育省、医療サービスは保健省が行っている。

社会福祉局によると、現在国家レベルでは、知的障害者のための入居施設（Taman Sinar Harapan）が5つしかないが、CBRセンターは全国で230有り、2000年度からは毎年20センター開くことを予定しているとのことである。

障害者の教育に関しては、現在教育省（Ministry of Education）は、1）聴覚障害者、2）視覚障害者、3）比較的軽度であり"Educable"な知的障害者、に対する教育を担当している。教育省が知的障害児を対象とした教育に着手するようになったのは、1988年からである。（関連法：特殊教育法 Special Education Act 1961、Education (Special Education) Regulations 1997）

マレーシアでは、教師が障害者を"Educable"と"Trainable"に区別し、"Educable"な者については教育省の責任、"Trainable"な者については社会福祉局の責任としている。（注：マレーシアでは教育の無償は保障されているが、教育を受ける権利は保障されていない。従って、全ての障害者の教育は教育省の義務とはされていない。）知的障害児については、比較的症状の軽い者については、特殊学級を持つ公立学校で教育している。

現状では、知的障害児者に対する教育分野での私立学校・NGOの役割は大きく、各省庁では対応しきれていない知的障害児の教育はNGOが担っている。その重要性は教育省も認めており、公立学校の教師によると、公立学校に通うことのできない重度の知的障害児者、あるいはより適切な教育を求めて相談に来る知的障害児の親には、私立学校やNGOの運営する学校を紹介するケースも多いとのことであり、政府機関と民間機関の連携が行われていることがうかがえる。

以下、同国の知的障害児者に関する各分野の関連機関を訪問して行った実態調査結果である。

⁴¹ Community-Based Rehabilitation (CBR) 地域に根ざしたリハビリテーション

「CBRとは、地域開発におけるすべての障害者のためのリハビリテーション、機会の均等、社会への統合のための戦略である。CBRは障害者自身、家族、地域社会の協同の運動、そして適切な保健、教育、職業、社会サービスによって実施される。」（"CBR for and with People with Disabilities" 1994 WHO, UNESCO, ILO 1994 Joint Position Paper）

*地域社会への障害者の参加を奨励し、地域の資源の利用による持続可能なアプローチであるCBRは、特に途上国において、従来の施設に根ざしたリハビリテーション（Institution-Based Rehabilitation : IBR）に代わる有効な方法として各国連団体（WHO, ILO, ユニセフ, UNDP, ESCAP等）が途上国各国に取り入れるよう推奨している。マレーシアも国家政策としてCBRを取り入れている一国である。

8-2-2 訪問による実態調査

1) 知的障害施設

a) Taman Sinar Harapan, Kuala Kubu Bahru

1984年設立の、社会福祉局所管の5つの国立の知的障害児者入居施設の一つである（“Taman”は“Garden”、“Sinar”は“Shining”、“Harapan”は“Hope”を意味するとのこと）。同施設は、庭、建物ともに清潔な入居施設であり、重度の知的障害者、運動障害が強い寝たきりの人（日本の重症心身障害者に相当）を15人程度預かることができるベッドつきの部屋などがある。看護婦は昼間の通いで4人いるとのことであった。医療的問題があれば近くの病院へ送るが、1年に1～2人の死亡者があるとのことである。知的障害者だけでなく、知的障害と身体障害の合併例が多く、当日もバスで知的障害を持つ車椅子の成人をピクニックに連れていき、職員が総出で下車の介護をしていた。

知的障害が比較的軽度の成人のための工作室、彼等がつくった工芸品を売るバザー等の行事があり、日本の民間施設との類似点がみられた。

b) サラワクE.I.P.¹¹²センター（クチン早期療育¹¹³プログラム）

もともとは、知的障害児親の会¹¹⁴が政府に要求して土地・建物を獲得し、資金も政府から得て設立されたが、1999年から、権限が全て政府から親の会に委譲された。クチンには教育省の管轄下に3つの特殊教育（主に学習障害者）クラスがあり、同センターではそれらの学校に通っている知的障害児を午後、受け入れている。特殊教育学校は、NGOのもので一つだけでしかないとのことである。その背景として、視覚障害児、聴覚障害児の教育に関しては、70年代の早くから政府（教育省）に認可されていたのに対して、知的障害児に関してはまだ認められていないことが挙げられ、現状ではNGOの役割が大きいとのことである。

同センターは原則として7歳以下の障害児の訓練を目的としている。社会福祉局の障害のカテゴリーは4つ（視覚障害、聴覚障害、知的障害、身体障害）のみであるが、当プログラムではダウン症候群と、脳性マヒと自閉症を分けている。2日間（午前中）をダウン症候群の為のクラス、2日間（午前中）を脳性麻痺、1日（午前中）を自閉症児のためのプログラムにあてている。

訪問当日は、約10名のダウン症候群の母子通園があり、遊び、音楽によるリズム体操等を見学できた。日本の早期療育プログラムと似ていたが、入学を断られた学齢のダウ

¹¹² E.I.P. = Early Intervention Programme 初期介入プログラム

¹¹³ 早期療育：障害を早期に発見し、適切な療育を行うこと。具体的には母子保健対策を中心とした各種の健康診査で障害を発見し、その原因を究明する。（出典：「社会福祉基本用語集」ミネルヴァ書房）

¹¹⁴ 親の会：心身障害児・者をもつ保護者の組織。（出典：同上）

ン症候群も参加するとのことであった。

同センターの運営には、サラワク州社会開発省福祉局があたり、本コース帰国研修員であるMr. Gabriel（サラワク州社会福祉局職員）も週2回指導にあたっている。又、関連機関として、NGOであるSarawak Society Parents of Handicapped Children（PIBAKAT）および、サラワク総合病院小児科が協力しているとのことである。

○問題点

同プログラムが抱える問題点としては、クチン市内に特殊教育学校が存在しないため障害者は普通学校に通学せざるを得ないなか、サラワク州においても障害者が学校に入れるかどうかは、学校の校長・教師の判断にかかっていることが挙げられた。入学できたとしても、たいていは普通学級であるため授業についていくのが難しく、途中で中退する生徒が多いとのことである。

また、同センターのEIPプログラムを終え学齢期に達しても、小学校に上がれない知的障害児の率は高く、一方、学校を卒業できたとしても生徒の多くが就業できず、結局家にいて家族からの支援を得ている確率が高いとのことである。

b) CBRセンター（日帰り訓練センター）：クチン

青年海外協力隊（大竹雅子氏）の関係している日帰りの訓練施設であり、18歳以上の知的障害者を対象としている。同センターは料理、学習、作業などの実習施設をもち、理学療法、作業療法、カウンセリング等も行われる。サラワク福祉理事会（Social Welfare Council of Sarawak）が運営しているが、資金は、中央政府とサラワク州政府が約3分の1を補助することになっている。

○問題点

大竹氏への聞き取り調査によると、同センターの抱える問題点は、まだ地域社会が知的障害児者及びCBRワーカーの取り組みを完全に受け入れてはいないために、CBRワーカーが働く時に困難が生じることである。また、現状では、同センターの活動がクチン市内、主に車で30分～1時間で送迎出来る範囲のみのカバーであり、過疎地まではなかなかカバーできず、サービスの不均等（市内に集中しすぎている）が生じており、CBRの理念である「スタッフが地域に入って行って啓蒙活動を行う」という活動レベルまでは達成できていないとのことである。

また、同分野の抱える問題点としては、サラワク州においてもGOである社会福祉局と、NGOである社会福祉協議会の交流はほとんどなく、縦割り行政であることが挙げられた。

○今後の方針

大竹氏によると、現在、同センターのスタッフをOTとして1名、PTとして1名養成すべく、サラワク州の奨学金を使ってクチンの養成学校に派遣しているが、これらの人材が同センターに揃えば、作業療法士としての大竹氏が去っても全ての療法士をローカルスタッフでまかなえるようになるとのことである。大竹氏は同センターに派遣された7代目の協力隊員であるが、同氏は、上記の人材が同センターに揃って落ち着いたら、現地スタッフのみで同センターの運営を行えるようにするという、当初の目的が達せられるため、新たな隊員派遣申請は行わず、自分の代で協力隊の派遣は終了にしようと考えているとのことである。同センターにおいては、青年海外協力隊の派遣→現地スタッフの育成（現地への技術移転）→現地スタッフの技術確立（現地技術の確立）、という効果的な技術移転のサイクルを見ることができた。

同地域において知的障害児者、CBRの取り組みに対する地域社会の理解が必ずしも進んでいない状況を鑑み、JICAが今後採るべき同分野への協力量針としては、地域社会に対して広く障害者についての啓蒙を行い、かつ途上国に存在する貧困問題と障害者に関わる問題に取り組むことができる村落開発の専門家の派遣が必要なのではないかとの提言がされた。また、同分野のさらなる推進については、青年海外協力隊（OT、PT、村落開発普及員）の派遣に加え、プログラム（青年海外協力隊、JICA専門家、研修員受入、政府、NGO）として地域全体に被益するようなアプローチ導入するべきである、という議論がされた。

2) 特殊学級併設校

・ Yaakub Latif Secondary School

教育省管轄の公立中学校であり、14歳～19歳を対象としている。普通学校の同じ施設内に、知的障害児のための特殊学級を設置している。ダウン症候群児と自閉症児と学習障害児（Learning Disability）の混合クラス（男女別）で7～8人のクラスが6つあり、クラスは障害の程度によって分けられる。12時半～17時が通常の授業時間であり、科目は英語、数学、プレ職業訓練（料理、庭整備、手工業等）である。

現在、特殊学級から2名の生徒が普通学級に通っているが、何か問題があれば特殊教育教師に報告されるようになっている。

○問題点

マレーシアでは、適切な技能を持った特殊教育教師が不足している。特殊教育教師養成のための大学はなく、教育省内にTeacher Training Divisionがあり、特殊教育はそのコースの一つ（SPED College）でしかない。大学では、特殊教育に学士を与えるのは国内に1校のみである。また、Educational Psychologist、OT、PT、STといった専門家も欠如してい

る。(ちなみに教育省で働くSTは2人のみである。)

○研修ニーズ

マレーシアではNGOが知的障害児の教育に対し大きな役割を担っているが、小さなNGOには人材の訓練を行う機会がない。大きなNGOに関しては、資金や訓練機会も潤沢であり、それよりも小さなNGOに研修を行って欲しいとのことである。

8-2-3 知的障害者福祉分野における課題

福祉と教育の関係

教育関係の帰国研修員が1人だけであり、学校の現場から離れているため、特殊教育の詳細については十分な情報が得られていない。福祉関係者の談話およびCBRセンター等の通所者などの実状から推察した範囲では、重度の知的障害児は学校に通っていないようであった。また、医学的に問題が起こりやすい知的障害児たとえばダウン症候群等についても入学できないとのことであった。

義務教育ではなく、入学の許可は客観的な指標がある訳ではなく、学校教師の判定("Trainable"か"Educable"か：前述参照)に委ねられているためとのことであった。また、特殊教育教師は介助を一切しないため、ADL(日常生活動作)⁴⁵に問題がない比較的軽度の知的障害児しか教育を受ける機会がないといえる。例え入学できたとしても、年次が進むにつれ上階の教室を使用することになれば、家族がその介助を行わなくてはならない等の理由により、中途退学者数が非常に多いとのことであった。

その結果、学齢期の中等度以上の知的障害児は福祉局所管の機関や、NGO施設等が受け入れことになるとのことであった。今後は、教育省と福祉局が戦略的に知的障害児者のサービスに関して連携をし、役割分担を行う必要があると思われる。

8-2-4 研修効果に影響をおよぼす人事的要因

○研修候補者の募集・選考方法(人事院からの聞き取り調査)

- 1) GIが届くと、JICA事務所から研修分野に関連する省庁・局等を指定してもらう
- 2) 関連省庁・局にGIの資格要件に合った人物を推薦してもらう
(通常、1位と2位の優先順位がつく)
- 3) 要請書を取りまとめてJICA事務所へ送付する

つまり、候補者の推薦については各省・局の長にまかせ、その後の選考についてはJICAに任せており、人事院はあまり関与していない。また、本コースに関しては、JICA

⁴⁵ ADL = Activity of Daily Living 日常生活動作：具体的には、毎日の生活を営むうえで必要な基本的動作のことで、食事や排泄、入浴、着替えなどの身の動作、その他家事、交通機関の利用などの生活関連動作がある。(出典：「社会福祉基本用語集」ミネルヴァ書房)

事務所が4つの省・局に配布しており、そこから一人ずつ要請書の提出がある。全員がGIの資格要件等を満たしていれば、全員に対して正式に推薦する。

帰国後の評価について

帰国研修員は、所属省庁・局にレポートを提出しており、重大な情報があると省・局が判断した場合には、人事院に提出される。人事院は、帰国研修員個人からの要望や指摘には対応できないが、省・局から提出されればJICAにも伝える。

一カ国二名受け入れについて

一カ国一名よりも、高い研修効果が期待できる。また、GIの配布先として、省庁・局、機関を特定するのであれば、JICA事務所にそう指示してくれれば、人事院としてはJICA事務所の指示通りに配布する。

研修ニーズについて

障害者福祉分野のニーズに関して多くのレポートが出ているが、特に教育省から特殊教育に対する申請が出てきている。知的障害福祉分野のニーズは今後ますます大きくなると思われる。

○社会福祉局職員の人事異動

社会福祉局には、特に障害者のための部局がなく、専門的に障害者福祉（知的障害も含む）に携わる職員はいない。そのため、職員は、障害者福祉を行うと同時に、その他の福祉分野の行うことになり、専門知識の蓄積がされ難い。

本コース帰国研修員についても、社会福祉局が大半を占めているが、帰国後それぞれしばらくは知的障害福祉に携わっていたが、その後は同局の他部署への異動を経験しており、習得技術の適用を継続して行うことができないという問題点が挙げられる。

8-2-5 帰国研修員の活動状況

1) 帰国研修員の活動

今回の面談を行った研修員のほとんどが国家統一開発省社会福祉局に属し、転勤によって各州の福祉局で障害者福祉に関係していた。また青年海外協力隊として現地で働く人達からも具体的な話を聞くことができた。

今回の訪問先は、首都クアラルンプールおよび隣接する州とサラワク州クチン周辺である。公務員として働いているので、個々の仕事場をすべて回ることはせず、7人とは2カ所の事務所で集団で面談した。

サラワク州勤務の帰国研修員Mr. Gabriel Teoについては、事務所での面談および同人の担当する地区センターの訪問により、帰国研修員の現場の活動状況も理解できた。

2) 帰国研修員の主な業務内容

帰国研修員は、数年毎の人事異動にしたがって各州を廻ってきたが、その地区で行った仕事について説明してくれた。

勤務した州は、ジョホール、メラカ、トレンガヌ、セランゴール、ネグリー・センピラン、ペラ、サラワク等に分布していた。多くは、福祉事務所や州の福祉局にいて州のCBRセンターの開設に携わり、現在も担当している人が多かった。CBRの直接業務としては通所部門の指導と施設外の地域部準備室担当のいずれかまたは両方であった。

CBRの対象となるのは地区によって差はあるが、ダウン症候群などを含む障害児、Learning Disability（日本でいう発達障害に相当するものであろう）、身体障害（運動障害、視聴覚障害等）が主体とのことであった。地区で担当する障害者は年とともに増加し、現在は毎年数百人登録されるが、CBRプログラムに参加するのはその1割くらいであるという発言もあった。

現場で働く人のほかに、政策立案者、管理者等として勤務する帰国研修員にも面談を行った。Mr. Mohamed ZMS (85)、Ms. Rose Jacob (92) 達は研修センターの長または責任者として、各種の障害者や社会福祉に関係する研修プログラムの作成と講義等に携わっていた。Mr. Haj Hamzah (90) は1990年に日本の研修から帰国した後、ジョホール・バルではグループホームの新設を手がけ、以後異動した先で知的障害福祉の予算化を手がけてきたという。最近では、セランゴール州福祉局長として、管下の全ての地区センターにリハビリテーション機器の整備や、数カ所にスヌーズレン¹⁵用設備を考えていると語っていた。

サラワク州はマレーシアへの併合が遅れたためもあり、行政的に分離している点が多々あるとのことであるが、CBRを推進するという方針は共通である。全ての障害をもつ人を対象にするという方針ですすめ、早期療育のためのプログラムをクチン他4カ所のCBRセンター、それと協力する形で診療所や母子保健センターを2カ所に開設した。サラワク州は半島部より一層NGOの活動を支援する体制をすすめ、帰国研修員Mr. Gabrielも行政の立場で、NGOに協力を求めつつ、CBRセンターの運営も行っている。

マレーシアからは、一名の教育省職員を除いて、全て社会福祉局職員であったが、全員、本コース参加によって得た知識・技術を帰国直後に何らかの形で業務に実践していた。特に、グループホームや通勤寮など、本コースでの視察によってアイデアを得たものを実践している例がみられたことは、本コースの波及効果の高さを証明している。それらの新事業を実践できたのも、帰国研修員が知的障害者に関する政策を立案すべき立場に

¹⁵ スヌーズレン：オランダのイーデにある知的に重い障害を持つ人々のための施設ハルデンベルグセンターにおいて、デザイナーのアド・ヴァフォールらにより、1984年頃より始められた取り組みであり、語源は、オランダ語の「Snuffelen=くくん匂いを嗅ぐ、Doezelen=うとうとする」という2つの言葉からできた造語である。スヌーズレン・ルームには視覚・聴覚・触覚・嗅覚を心地よく刺激する機材がレイアウトしており、楽しめたり、落ち着けるような工夫がなされている。（「重症心身障害医学 最近の進歩」（社）日本知的障害福祉連盟発行）

あり、自らの計画を実現できる部署にいたことも大きな理由の一つである。

帰国研修員の抱える問題点としては、人事異動によって他の業務に携わらざるを得ないことであるが、その際は必ず後任に事業を引き継いでから異動しているとのことである。また、同国の知的障害者を取り巻く状況と、我が国の状況があまりに異なるため、帰国後、自分の知的障害者への理解度と同僚の理解度のギャップ差を埋めるのに苦勞することも問題点として挙げられた。すなわち、我が国での授産施設等を視察し、知的障害者が適切な訓練・指導によって様々な作業を行うことが出来るということを理解し、それらの制度を自国にも導入しようとしても、同僚に知的障害者がそういったことを出来るということを納得させるのに非常に労力が必要であるということである。写真やパンフレット等を駆使し説明し、同僚が納得してから、やっと事業立案・実施に取り掛かることができたという。

効果的な研修員受入方法としては、同国の帰国研修員が同じ機関（社会福祉局）から連続して輩出されたために、一人だけでは出来ないことも数人集まって協力して行うことができたという例を挙げ、研修員の連続性が帰国後の活用に非常に重要であることが指摘された。

9. 今後の知的障害福祉コース

一カ国二名受け入れ

今回の調査により、両国とも、知的障害児者に関わる関連分野の連携は必ずしも進んでおらず、縦割り行政の弊害が存在することが確認された。現在までも「知的障害福祉」コースでは、知的障害福祉に関わる異分野・職種間の連携・協力の重要性を理解させるために、分野横断的・学際的な研修、異分野からの研修員の受け入れを試みてきたが、本調査の結果、今後もその基本方針が効果的であることが確認された。また、どの分野の研修員にとっても、自国で知的障害者への理解、社会の受け入れを促進するための手法・技術・経験に関する研修ニーズが高いことも確認された。

現在までのコース参加研修員の評価会での意見などで、一カ国二名受け入れることの有効性は確認されてきたが、今回の調査においても、さらにそのことへのニーズは再確認された。一カ国二名の案としては、(1) 政府・非政府組織に関わらず、政策立案・決定の立場にある者と、日々知的障害児者へのサービス・ケアを行っている者のペアでの受け入れ、(2) 異なる分野（例えば教育分野と福祉分野）の機関から各1名ずつ、(3) 政府機関と非政府機関からの1名ずつ、といった案が提出された。

ただし、各国の諸事情によって、どの組み合わせでの受け入れが知的障害福祉を推進する上で最も効果的であるのかは異なるため、今後は、各国の要望・事情にあわせた受け入れが必要と思料される。

帰国研修員のフォローアップ

今回、帰国研修員と面談し、帰国後のフォローアップに対するニーズの聞き取り調査を行ったが、帰国研修員の抱えるフォローアップニーズとしては主に下記のもの挙げられた。

(1) 最新情報の供与

途上国においては、知的障害児者に関する情報が極端に少なく、本邦研修で配布された各種テキスト・資料・パンフレット等が非常に重宝されているという報告を受けた。これらの資料は、帰国研修員だけでなく、知的障害福祉に携わるあらゆる人材によって活用されているとのことである。

一方、同分野における我が国の取り組みも年々新たなものが行われており、日本に於ける最新の活動・傾向等の情報に対するニーズが特に高いことが確認された。これには、途上国において知的障害児者に関する偏見が存在し、知的障害児者の持つ可能性に対する評価が極端に低いという事情が背景にあり、そのような中、日本の知的障害児者の就労現場、自立生活現場に関する写真や記事を入手することは、知的障害福祉に携わる人材、あるいは国民の偏見・誤解をただすために非常に重要である。

従って、帰国研修員に対する、我が国の同分野における取り組みに関する最新情報

(資料、記事等)を提供することが、帰国研修員に対する有効なフォローアップであるとの結論に達した。

なお、帰国研修員への最新情報提供に関しては、過去に(社)日本知的障害福祉連盟が実践したが、帰国研修員の異動にともなう住所変更などにより、継続が難しいとのことである。今後、JICAとして本件を帰国研修員に対するフォローアップ制度の一つとして導入することを検討していくためには、帰国研修員の住所等の把握が必要である。

(2) 帰国研修員同士の情報交換ネットワーク

本コースは集団コースであるため、全世界の同分野に携わる研修員と意見交換・情報交換を行うことができ、非常に参考になったとの意見が帰国研修員から挙げられた。また、先進国日本の取り組みを学ぶとともに、同程度の経済発展レベルにある、他の参加国の取り組みについて知ることが、帰国後非常に参考になるとのことである。

特に、他国の帰国研修員の帰国後の活動についての情報を得ることは、途上国として似たような人的・経済的制約を持つ中で、日本で同じことを学んだ後どのように日本の知識・技能を自国に適用したのか知ることができ、非常に参考になるとともに、モチベーションを高められるとのことである。

本件に関しては、(社)日本知的障害福祉連盟は、過去に帰国研修員の取り組み状況を把握すべく、各国にQuestionnaireを送付してレポートの提出を求めたことがあるが、帰国研修員の英語力の問題もあり、提出率が低く、継続できなかつたとのことである。今後、本格的に実施するためには、JICAと(社)日本知的障害福祉連盟が協力して実施する必要があると思料される。

(3) 機材供与について

帰国研修員は、JICAの集団研修の目的が機材供与ではなく、技術・知識の移転を目的とすること、帰国研修員は帰国後は自助努力によって、技術・知識の適用を行うべきであることを理解した上で、フォローアップへのニーズとして所属先への機材供与を挙げた。

知的障害児者のQOL (Quality of Life) の向上において、最終的目的の一つが、就労による社会参加であるが、途上国においては、知的障害者の就労能力・可能性についてはほとんど知られていないのが現状である。研修員の多くは、本研修に参加して実際知的障害児者が働く現場を見聞することによって初めて、知的障害児者が適切な指導・訓練を受けることによってパン作り、縫製等の作業が出来ることを初めて理解したと報告している。ただし、帰国後、日本で見たことを実践しようとしても、途上国の知的障害児者に関する予算が極端に少なく、又、知的障害者の可能性に対する理解度が低い中、十分な機材が与えられず、困難にぶつかるという指摘を受けた。

又、両国において、今後の課題として知的障害児者の職能訓練の重要性が説かれたが、上記のように、知的障害福祉に携わる人材が自力で自国の政府から予算を獲得するこ

とが困難である事情を鑑みると、同分野の推進においては必ずしも研修員受入事業だけでは実現が難しい状況にある。具体的には、職能訓練機材の充実には、草の根無償との連携、職業訓練／教育においてはプロジェクト方式技術協力又は専門家／青年海外協力隊の派遣、現状把握とマスタープランの作成においては開発調査の実施など、研修事業以外との連携も将来的には必要になると思料される。

以上

添 付 資 料

1. 知的障害福祉コースの概要
2. 帰国研修員リスト
3. クエスチョネア集計票
4. 各援助機関による障害者福祉分野活動状況
5. 当該国での回収資料一覧
6. 議事録
7. 参考文献

1. 知的障害福祉コースの概要

(1) 目的

開発途上国において知的障害者福祉および教育に携わる者を対象に、知的障害者に関する学際的知識を深め、彼等に対する我が国の制度や種々の施設を紹介し、帰国後それぞれの国における制度確立・強化に寄与することを目的とする。

(2) 設立年度及び経緯

本研修コースは、昭和55年度より国際協力事業団が(社)日本知的障害福祉連盟に委託し開始されたもので、本年度で20回目を迎えた。

(社)日本知的障害福祉連盟は、昭和50年度に第2回アジア精神薄弱会議を日本に招致し、また、昭和54年度にはアジア9ヶ国から14名の参加者を得て4ヶ月間の「アジア精神薄弱者福祉専門職員長期研修」実施しており、その経験が本コース運営に活かされている。

なお、(社)日本知的障害福祉連盟は、平成10年度より厚生省が「精神薄弱」に代わる用語として「知的障害」を認めたことにより、(社)日本精神薄弱者福祉連盟から、現称に改称した。

そのことに伴い、本コース名称も旧「精神薄弱福祉」から、現「知的障害福祉コース」に改称した。

(3) コース参加者の到達目標

- ① 知的障害者に関する知識を深める。
- ② 知的障害者に関するわが国の法制度、政府政策、医療、特殊教育・訓練、福祉制度、就労などの現状・課題を理解する。
- ③ 自国における活動計画の概略を作成できる。

2. 帰国研修員リスト

LIST OF EX-PARTICIPANTS
 GROUP TRAINING COURSE IN INTELLECTUAL DISABILITIES
 知的障害福祉帰国研修員名簿
 PHILIPPINES
 フィリピン

	氏名	コース参加期間	コース参加時の職務	
			役職	機関
1	MS.ANGELINA C. VIDAR	1980年度 1980.09.11～ 1981.03.10	HEAD SOCIAL WORKER	DEPARTMENT OF SOCIAL WELFARE AND DEVELOPMENT 社会福祉省
2	MS.LIWAYWAY V.YALO	1981年度 1981.09.18～ 1981.03.09	MASTER TEACHER	DEPARTMENT OF EDUCATION, CULTURE & SPORTS 教育・文化・スポーツ省 DIVISION OF SCHOOL MANILA
3	MS.LORENA A.CASUGA	1982年度 1982.09.09～ 1983.03.08	OCCUPATIONAL THERAPIST	PHILIPPINE GENERAL HOSPITAL, UNIVERSITY OF THE PHILIPPINE
4	MS.ERLINDA D. ELAMPARO	1983年度 1983.09.08～ 1984.03.07	SPECIAL EDUCATION TEACHER	DEPARTMENT OF EDUCATION, CULTURE & SPORTS 教育・文化・スポーツ省
5	MS.ERLINDA A.LAYCO	1987年度 1987.06.11～ 1987.12.20	SPECIAL EDUCATION TEACHER	DEPARTMENT OF EDUCATION, CULTURE & SPORTS 教育・文化・スポーツ省
6	MS.MARIA CLATRA V.LABARDA	1990年度 1990.06.11～ 1990.12.21	SPECIAL EDUCATION TEACHER	DEPARTMENT OF EDUCATION, CULTURE & SPORTS 教育・文化・スポーツ省 P.BURGOS ELEMENTARY SCHOOL
7	MS.MA.DELIA QUIMBO MINOZA	1993年度 1993.09.03～ 1993.12.11	SPECIAL EDUCATION TEACHER 3	DEPARTMENT OF EDUCATION, CULTURE & SPORTS 教育・文化・スポーツ省
8	MR.VIDAL MATAYA LAGOS	1994年度 1994.09.13～ 1994.12.11	HUMAN RESOURCE MANAGEMENT OFFICER	HEALTH MANPOWER DEVELOPMENT.&TRAINING SERVICE

LIST OF EX-PARTICIPANTS
 GROUP TRAINING COURSE IN INTELLECTUAL DISABILITIES
 ("MENTAL RETARDATION" UNTIL JFY 1998)
 知的障害福祉帰国研修員名簿
 MALAYSIA
 マレーシア

	氏名	コース参加期間	コース参加時の職務	
			役職	機関
1	MR.P.SABAPATHY S/O PALANY	1980年度 80.9.12-80.9.25	PAL/SOCIAL WELFARE OFFICER	DEPT. OF SOCIAL WELFARE, MINISTRY OF NATIONAL UNITY & COMMUNITY DEVELOPMENT 国家統一・社会開発省社会福祉局
2	MS.NORMAH BINTI HJ.JAMALUDDIN	1982年度 82.9.9-83.3.8	SOCIAL WELFARE OFFICER	DEPT. OF SOCIAL WELFARE, MINISTRY OF NATIONAL UNITY & COMMUNITY DEVELOPMENT
3	MR.ROSMAN KHAN BIN ZAINAL ABIDIN KHAN	1984年度 84.08.23-85.03.05	SOCIAL WELFARE OFFICER	DEPT. OF SOCIAL WELFARE, MINISTRY OF NATIONAL UNITY & COMMUNITY DEVELOPMENT
4	MR.MOHD.ZIN BIN MAT SALLEH	1985年度 85.08.22-85.03.04	SENIOR WELFARE OFFICER	DEPT. OF SOCIAL WELFARE, MINISTRY OF NATIONAL UNITY & COMMUNITY DEVELOPMENT
5	MR.MOHD.DZAABR BIN DARUSMAN	1986年度 86.08.24-87.03.08	SUPERINTENDENT	DEPT. OF SOCIAL WELFARE, MINISTRY OF NATIONAL UNITY & COMMUNITY DEVELOPMENT
6	MS.LEE SWEE LIAN	1987年度 87.06.11-87.12.20	DISTRICT SOCIAL WELFARE OFFICER	DEPT. OF SOCIAL WELFARE, MINISTRY OF NATIONAL UNITY & COMMUNITY DEVELOPMENT
7	MS.PUAN ZAINON BINTI GHAZALEY	1988年度 88.6.12-88.12.19	DEPUTY SUPRITENDANT	DEPT. OF SOCIAL WELFARE, MINISTRY OF NATIONAL UNITY & COMMUNITY DEVELOPMENT
8	MS.PUAN KAMALIAH BINTI HAJI ISMAIL	1989年度 89.6.12-89.12.16	SOCIAL WELFARE OFFICER	DEPT. OF SOCIAL WELFARE, MINISTRY OF NATIONAL UNITY & COMMUNITY DEVELOPMENT
9	MR.HAJI HAMZAH BIN HAJI ISMAIL	1990年度 90.6.11-90.12.21	SOCIAL WELFARE OFFICER	DEPT. OF SOCIAL WELFARE, MINISTRY OF NATIONAL UNITY & COMMUNITY DEVELOPMENT
10	MR.JOHARI BIN SAAD	1991年度 91.6.3-91.12.13	SOCIAL WELFARE OFFICER	DEPT. OF SOCIAL WELFARE, MINISTRY OF NATIONAL UNITY & COMMUNITY DEVELOPMENT
11	MS.ROSE D/O JACOB	1992年度 92.6.11-92.9.3	DEPUTY SUPERINTENDENT	DEPT. OF SOCIAL WELFARE, MINISTRY OF NATIONAL UNITY & COMMUNITY DEVELOPMENT
12	MS.KAMALIAH BT.MUHAMMAD	1996年度 96.5.7-96.7.20	SPECIAL EDUCATION TEACHER	MINISTRY OF EDUCATION 教育省
13	MR. GABRIEL TEO AH SAH	1999年度 99.5.11-99.7.25	SOCIAL WELFARE OFFICER	SOCIAL WELFARE DEPARTMENT, SARAWAK サラワク州社会福祉局

3. クエスチヨネア集計票

クエスチヨネア集計票
知的障害福祉コース
(技術協力窓口機関用質問)

関係機関名：マレーシア人事院

1. 知的障害

1.現在、貴国において上記分野に関する政策はありますか？

無回答

2.貴国において知的障害分野の促進を図るプロジェクトはありますか？

無回答

3.貴国において知的障害分野の教育システムはどのようなものですか？

無回答

1.1. 研修コース評価

1.あなたは、上記研修コースが知的障害の改善に効果的だったと思いますか？

無回答

1.1.1. 参加者の選考について

1.この集団研修コースの「情報」配布先の組織をあなたはどのように選びますか？

無回答

2.貴課において、この研修コースのための関連組織が推薦した参加者をどのように選考しますか？

選考された候補者名は、最終選考に向け、クアラランプールのJICAオフィスに提出されます。

ご協力どうも有難うございました。

クエスチヨネア集計票

知的障害福祉コース

(関係機関用質問)

機関名：マレーシア国家統一・社会開発省社会福祉局

Department of Social Welfare, Ministry of National Unity and Social Department

1. 関連分野における研修の重要性

1. 貴機関において、知的障害分野の発展のために、どの分野を優先すべきだと思われるか？（例：教育、福祉、職業訓練／リハビリ、等）
又、その理由をお書き下さい。

- ・教育：当局は、わが国で唯一特殊教育者の訓練を担当しているため。
- ・職業訓練／リハビリ：あらゆる意味で、健常者と平等になるよう、政府やNGOによって機会の場を提供されるべきだと思う。

2. この分野のプロジェクトは何かありますか？

1) 現在： (○) はい / () いいえ

↓ (「はい」の場合、簡単に説明ください。又、もし

↓ 関係文書が有れば、添付してください。)

↓

- ・障害児を普通学級に入れるプログラム。(統合教育)
- ・現在、入所施設が5箇所と、CBRセンターが213箇所あります。

2) 過去3年間： (○) はい / () いいえ

↓ (「はい」の場合、簡単に説明ください。又、もし

↓ 関係文書が有れば、添付してください。)

↓

- ・知的障害者は統合教育のため普通学校に行きますが、専門の先生のいる特別学級に振り分けられます。
- ・回答なし。

3)今後5年間： (○) はい / () いいえ

↓ (「はい」の場合、簡単に説明ください。又、もし

↓ 関係文書があれば、添付してください。)

↓

- ・知的障害児向けの職業訓練学校の設立。
- ・入居施設の増設とC B Rセンターを年に20新設すること。

1.1. 研修コース評価

1.研修概要に記載されている目的と目標は、あなたの国の知的障害福祉分野の要件を満たしますか？

(○) はい / () いいえ

2.知的障害(精神障害)分野のあなたの国の要件をさらに満たすために、目的と目標を変える必要はありますか？

() はい / (○) いいえ

3.貴機関は、帰国研修員の評価をしますか？

(○) はい / () いいえ

「はい」の場合、どのように評価しているか、お書き下さい。

- ・研修員は全員、人事院作成の評価書類に記入し提出することになっています。それに加えて、所属機関にコースについての報告書を提出します。
- ・知的障害者向けの特殊学級で児童向けプログラムの参観をする。

1.1.1. 参加者選考

1.どのようにJICA研修コースの参加者を選考しますか？詳細に述べて下さい。

(例：試験又は面接の内容)

- ・研修/キャリア開発課は関連部署の職員の記録を保管しています。任命(推薦)は、本部長(Director General)を議長とする研修委員に提案されます。日常の勤務姿勢・評価に従って人選が行われ、最終選考用に候補者のリストが人事院に送られます。

- ・ 1. 在職年数 2. 経験 3. 研修への興味／熱意
個人面接と上司の推薦も合わせて行います。

2. 研修員選考にどのくらい時間がかかりますか？

- ・ 4週間
- ・ 1ヶ月

3. どの機関からこの研修コースのことを知りましたか（パンフレット等で）？
また、この研修コースのことをあなたの部下にどのように教えましたか？

- ・ 総理府人事院
- ・ JICA事務所

IV. 適用性

1. 帰国研修員の研修成果の活用について以下の質問にお答え下さい。

1) 研修員の研修成果の活用で、貴組織ではどのような影響が生じます／したか？

- ・ 研修員を直接関係のある部門に配属することによって、帰国研修員の知識や技術を確実に活用するようにしています。
- ・ 1) 研修の重要性の認識
2) マクロ／ミクロレベルでさらなる貢献

2) 貴組織は研修員がセミナーで得た知識や情報をどのように活用していますか？
具体的にお答え下さい。

- ・ 各自、業務に知識、技術を活用する他に、研修員自身もリソースパーソンとして可能な限り、内部研修プログラムに参加するようにしています。
- ・ 研修のとりまとめ

2. 帰国研修員が取得した知識を効果的に活用する計画がありますか？

(○) はい / () いいえ

「はい」の場合、簡単に説明して下さい。

- ・上記 (IV.1.2) のとおり
- ・以前のプログラムの効果の程度を知る (はかる) 為の内部研修と評価プログラム

V. 海外研修

1. 貴組織は、職員を他国の当該分野関連研修コース/セミナーに参加させましたか？

() はい / () いいえ 無回答

2. 他国の研修コース/セミナーと比較して、JICAの研修コースをより良くするための提案やコメント等ありますか？

無回答

VI. その他

1. 研修コースについて、何かご要望がありましたら、お書き下さい。

- ・この分野の研修コースの機会が限られている。さらに、研修者の中には、研修後退職したり、昇進したり、また別の部署に配属される人もいるので、より質の高いサービスを持続的に提供する為、研修を受けた者を常に確保しておく必要があると思います。
- ・知的障害に関する、最新情報を提供してほしい。

ご協力どうも有難うございました。

クエスチヨネア集計票
知的障害福祉コース
(帰国研修員用質問)

1. 研修に参加した年： 1984/5年（1名）
1985年（1名）
1989年（1名）
1990年（1名）
1991年（1名）
1996年（1名）
1999年（1名）
2. 現在の職業
- 1) ・役職 副部長
・部署名 Peranrangan Dan Sistem Maklumat
・機関名 社会福祉省
 - 2) ・役職 社会福祉職員
・部署名 Palang地区社会福祉課
・機関名 Misia州社会福祉省
 - 3) ・役職 社会福祉職員
・部署名 Marang地区社会福祉課
・機関名 Terengganu州社会福祉省
 - 4) ・役職 州社会福祉局長 (State Director)
・部署名
・機関名 社会福祉省
 - 5) ・役職 所長 (Superintendent)
・部署名 Rumah Seri Kenangan
・機関名 社会福祉省
 - 6) ・役職 副部長
・部署名 研修課
・機関名 Institut Latihan Kebajikan
 - 7) ・役職 副部長
・部署名 特殊教育局
・機関名 マレーシア教育省
 - 8) ・役職 福祉職員(Welfare Officer)
・部署名

・機関名 Sarawak 福祉省(Welfare Department Sarawak)

貴機関の種類	政府	(8名)
	地方自治体/公共団体	(0名)
	半官半民	(0名)
	非政府/民間	(0名)

II. コースの適用可能性

1. コースで得たことを帰国後適用してみましたか。

はい (以下の質問に答えて下さい) / いいえ (その理由を書いて下さい)

↓ (8名) (0名)

↓

(1) 実地に試行した内容は何ですか。

- ・ 知的障害児向け施設のスタッフと研修コースで得た知識、技術を共有しました。
- ・ 障害者のための就職・社会復帰の場を提供するワークショップを開きました。
- ・ 1)精神障害児対象の機材。
2)特殊技術。
3)課外活動のうちのいくつかの活動。
- ・ 知的障害者を健常者として、その能力をのばしていくこと。
- ・ 無回答
- ・ 職業訓練、グループホーム
- ・ 1)知的障害児の教育に関する講義や話し合い
2)フィールドトリップ中に得た知識を活用しました。例えば、重複障害児の扱い方に関する知識等。
- ・ 太田アプローチがとても役に立ちました。過去2ヶ月間の限られた時間、範囲内で、私の担当するプログラムの中で、知的障害児/者へのアプローチ法として取り入れました。又、来年には地方で、コテージアプローチを取り入れてみるつもりです。

(2) 上記を適用した方法について書いて下さい。

- ・ 1)知的障害児 (特に寝たきりの知的障害児) の扱い方に関する知識。
2)体操
3) (子供向け研修) オープンクラス (クラス参観)
4)障害児の健康と発育

5)運営

- ・簡単な作業で、なお且つその作業によって収入を得られるような、
(障害者の為の就職・社会復帰の場を提供する)ワークショップのセッションを開きました。このワークショップは現在も続いています。
- ・1)機材 - 例)木製の車椅子制作
- 2)特殊技術 - 例)カーペット作り
- 3)課外活動 - 例)絵画(動物)
- ・グループホーム、CBRプログラム、就職・社会復帰の場を提供するワークショップの実施。又必要に応じ、身体障害者に職業訓練を行いました。
- ・会議、話し合い、また職業訓練を通じて。
- ・1)職業訓練にさらに力を入れ、その結果、より多くの訓練者が職につきました。
- 2)施設にとっては、初めての試みとしてグループホームを始めました。以来、施設が監督しています。
- ・普通校の特殊学級を担当する教師向けのコースとして。
- ・EIP、CBRセンターの障害児との生活の中で、上記のアプローチ方法の目的をCBR職員やセラピストに説明し、また、自宅でもCBRプログラムを実践するためにも、児童の両親からの協力も必要であることを説明してきました。各児童の両親は、子供の発達をこのプログラム開始し1~2週間後、我々に報告することになっています。

(3) 上記を実地に移した時期は帰国後直ぐですか。

はい(8名) / いいえ(0名) (その理由を書いて下さい)

2. 仕事に有用でない研修事項がありましたか。

はい(1名) (その項目と理由を書いて下さい) / いいえ(7名)

↓

- ・評価(assessment):わたしの業務にとっては実用的でないから。

3. 研修成果を自分の仕事に適用する際の阻害要因について以下の質問に答え下さい。

(1) 研修成果の適用に上司の理解と協力が得られますか。

はい(8名) / いいえ(0名) (あなたの立場を説明して下さい。)

(2) 研修成果の適用に十分な資機材が与えられますか。

はい (7名) / いいえ (1名) (あなたの立場を説明して下さい。)

(3) 研修成果の適用に十分な人員が与えられますか。

はい (5名) / いいえ (3名) (あなたの立場を説明して下さい。)

↓

・教育セラピスト、言語療法士 (S T) というような
専門知識をもった人材が足りない。

・無回答

(4) 研修成果の適用に当って、当面する問題点を挙げて下さい。

・ありません。(5名)

・同僚は同じ経験をしたことがない為、説得するのに苦勞しました。

・1)職業訓練をモニターする人材が不足していること。

2)この分野の専門家が不足していること。

・物理的空間と設備不足。(過去2ヶ月間、EIPセンターはスペースと機
材不足のため、計画した活動を実現することが出来ませんでした。

活動には、場所と特別な機材と訓練を受けたスタッフが必要ですが、
訓練に適した部屋は地方公共事業課から提供されることになり、障害
児の両親からの協力もあり、(活動)計画は立案されました。)

1.1.1. 研修コースの評価

1. コースに対する期待は次の点で満たされましたか。

(1) 講義 : はい (7名) / いいえ (1名) (その理由を書いて下さい)

↓

・教材の英訳があまり良くありませんでした。
通訳が入っても効果がないように感じられ
ました。また、意味のない理論ばかり強調
されていました。

(2) 見学 : はい (8名) / いいえ (0名) (その理由を書いて下さい)

(3) 実習 : はい (8名) / いいえ (0名) (その理由を書いて下さい)

2. どのような知識や技術に力点を置くべきだと思いますか。また、カリキュラムに
組み入れるべきだと思いますか。

- ・無回答（3名）
- ・研修旅行。
- ・評価の仕方、討論（情報・意見共有）、職業訓練、グループホーム。
- ・知的障害児対象の職業訓練。
- ・我が国には、専門のセラピストがほんのわずかしかないので、コテージ訓練アプローチが適していると思います。又、知的障害児対象の太田アプローチは、CBR職員に教え、取り入れていくべきだと思います。

3. コース改善に提言があれば書いて下さい。

- ・このコースをディプロマ・コースにすべきだと思う。
- ・なし。
- ・1)現在の6ヶ月コースから4ヶ月に期間を短縮する。
(注：99年度現在、同コースは2ヶ月半に短縮されている。)
- 2)マレーシアからの参加者を2人にする。
- 3)知的障害者施設へ見学に行く機会を増やす。
- ・なし。
- ・なし。
- ・1)参加者は既に理論は理解しているので、理論にさく時間を少なくした方がいい。
- 2)ワークショップやグループ活動を増やした方がいい。
- 3)質疑応答、意見交換の時間を増やし、逆に講義の時間をもっと少なくした方がいい。
- 4)日本語コースを研修コースと合わせて受けるより、各研修員が来日前に履修して来るべきだと思う。
(注：99年現在、日本語コースは廃止している。)
- ・カウンセラーと知的障害児の両親との話し合いの場を持つべきだと思う。
- ・実用的な職業訓練を伴わない、知識詰め込みのコース内容だと、コテージ訓練／太田アプローチを後で取り入れようとする時になって、それがどういったものだったか忘れてしまっている可能性があると思います。

IV. 今後の「知的障害福祉」コースのために

今年でこのコースも20年目になり、各国の要求を満たせるようコースの見直しを考えています。ついては下記の質問についてコメント、ご意見等ございましたら、コース改善のため、お書き下さい。

1. 「知的障害福祉」コースの主な見直しの一環として、帰国研修員が帰国後研修

で学んだことを各レベルの業務に取り入れることを目指し、現在、各国から2名の参加者を募ることを計画しています。

- ・2名で効果が期待できると思いますか？

はい(8)名 いいえ(0)名(その理由を書いて下さい。)

↓

- ・下記から最適だと思われる人物(2名)を選択し、その理由をお書き下さい。

(7) 政府役人

(1) 地方自治公務員

() 医者

(4) 専門学校教師

() ワークショップマネジャー

(1) NGOスタッフ

() その他

理由：

- ・協力し話し合っって知的障害者により良いサービスを提供出来ると思うから。

2. 参加者として、「知的障害福祉」コースについてコメント等ありましたら、お書き下さい。

- ・このコースをディプロマレベルにアップすることを希望します。

- ・解決しなければならない問題は、「言葉の壁」だと思います。

講師やスーパーバイザーの多くが英語を話せないですし、参加者も日本語を話せないからです。

- ・1)知的障害についての新たな考えを紹介してもらいたい。

2)知的障害についての新しいカリキュラムを紹介してもらいたい。

- ・講義よりもっと実用的なセッションをもつべきだと思います。

- ・1)理論や講義を少なくし、討論、グループ活動、ワークショップの場を多くする方がいい。

2)私が参加したコースの参加者はたったの5名でしたが、少なくとも10～15名いた方がいいと思います。

(注：99年度現在、定員は8名である)

- 3)参加者がもっと研修内容に集中できる様に、日本語講習は研修内容に組み込むより、事前に受けて来るようにした方がいいと思います。

(注：99年度現在、日本語講習は廃止済み)

- 4)研修コース期間を(現在の6ヶ月ではなく)3ヶ月にしてもいいと思います。

(注：99年度現在、2ヶ月半に短縮済み)

- ・知的障害の分野に携わる人物を受け入れる方が、より効果があると思います。
- ・コース内容はもっと絞り込むことが可能だと思います。例えば、乳児期、幼児期、ティーンエージ期、そして成人期にわけ、各段階の知的障害者への接し方、教育等に的を絞ることが出来ると思います。又参加者の選考については、知的障害の仕事の経験の有無に基づき、且つ、その参加者が研修後、母国の必要性に応じて実務に反映する可能性があるかどうかということをもとに行うことが理想だと思います。

V. 帰国研修員に対するフォローアップ

1. JICA又はJLMR(JLID)からどのようなフォローアップ/アフターケアを期待しますか？

1) 文書、又は技術の情報

- ・利用可能な新技術
- ・ 1) 言語トレーニング 2) グループ活動 3) Half way house
- ・ 1) 新たな知識の修得 2) 最新情報の提供 3) 講師が原因で起こった問題
- ・ 1) 日本内外での知的障害に関わる新たな事実、ニュース 2) 障害へのアプローチに関する切り抜き記事 3) 教材紹介

2) 機器、又は教材

- ・ 1) 理学療法 2) 楽器 3) 理学機器
- ・ 1) 文献
- ・ 1) 文献 (雑誌、ニュースレター、写真)
- ・ 1) 現在実際に使われている最新の機材の紹介。
- ・ 1) (年代順に整理して) ビデオカメラとビデオデッキ 2) 机と椅子 3) 関連教育に関してのハンドブックと補助教材

3) 技術専門家

- ・ 1) 最新トレーニング療法 2) 新刊本の紹介 3) 研修/リハビリ施設紹介のビデオ
- ・ 1) 技術的な問題に直面した講師のために。 2) 最新情報修得のために。
- 3) 友情：最新の知識修得のために。
- ・ 1) インターネット上での質議応答 2) 実施決定済みのプロジェクト用資金調達 3) 各センター/各国に適した計画又は草案。

4) さらなる研修

- ・ 年に1回、帰国研修員対象のセミナー又はミーティングを開いてほしい。

- ・トレーニング/リハビリのコンピュータソフトの制作。
- ・1)知識のアップグレード化。2)最新の開発情報についてのアップグレード化。
- ・1)太田アプローチ 2)コテージアプローチ 3)CBRアプローチ

2. JICAはアフターケアの一環として、「KENSHU-IN」誌を帰国研修員に配布するとともに帰国研修員同総会の補助を行っていますが、他に要望がありますか。

- ・特にありません。(4名)
- ・はい、「KENSHU-IN」誌を送ってほしい。
- ・本。
- ・最新の機器や情報についての冊子を送ってほしい。
- ・「太田」アプローチの本から抜粋し翻訳した記事を送ってほしい。

VI. 日本以外の外国研修

1. 日本での研修と類似の研修を受けたことがありますか。

はい(1名) / いいえ(6名)

↓

(参加年、国名、期間、主催等について書いて下さい。)

- ・86-87年 1年 特殊教育Needs
グラスゴー/スコットランド
マレーシア文部省 主催/後援

2. 日本の研修との比較の上で、コース改善の提言を書いて下さい。

- ・特にありません。(6名)
- ・1年間グラスゴーに行ったことがあるので、今回日本で参加したセミナーと比較して各々で得たことを情報/知識が沢山あります。

ご協力ありがとうございました。

4. 各援助機関による障害者福祉分野活動状況（フィリピンのみ回答あり）

フォローアップ調査に先だって、両国における各援助機関による障害者福祉分野活動状況のアンケート調査を行った。情報収集を行えた機関は下記の通りである。

（CIDA、GTZに関しては、「現在同分野の活動を行っていない」旨回答あり）

別添1：AUSAIDによる活動状況

別添2：The World Bankによる活動状況

別添 1 : AUSAIDによる活動状況

LIST OF PROJECTS FOR THE WELFARE OF DISABLED PERSONS

SUPPORTED UNDER THE DIRECT AID PROGRAM (DAP)
FOR FISCAL YEAR 97/98

1.

1.a *Content of Activities*

Project Activity : Purchase of Equipment and Skills Training
DAP Grant : PhP 100,000
Project Location : NCR: Manila (Rizal Park)
Project Description :

HALIKA has an existing canteen in Rizal Park which is exclusively managed and is benefitted by its members, all of whom are persons with disabilities (PWDs). The project aims to improve the operations of the canteen through two components: (1) provision of Food Processing and Cookery trainings which will upgrade the skills of the members; and (2) purchase of additional cooking equipment through the DAP grant. The expected increase in profits will mean better livelihood opportunities for the beneficiaries.

1.b *Target Groups*

- (✓) Physically Disabled Persons
- (✓) Visually Disabled Persons
- (✓) Persons with Hearing Impairment
- (✓) Persons with Intellectual Disabilities

1.c *Responsible Agency* : Handog Lingap sa Maykapansanan
(HALIKA) Foundation, Inc.

1.d *Project Site* : NCR: Manila (Rizal Park)

2.

2.a *Content of Activities*

Project Activity : Gym Needs for the Autistic (GYMNAUST)
Implementing NGO/PO : Professionals for Autism Foundation (PAF)
DAP Grant : PhP 100,000
Project Description :

The project involves the construction of a covered mini-gymnasium (10 m x 6 m) that will accommodate sports and playground equipment. A covered gymnasium will facilitate the conduct of gross motor skills development classes. DAP funds will be used to purchase construction materials while the proponent will shoulder labor expenses.

2.b *Target Groups*

- (X) Physically Disabled Persons
- (X) Visually Disabled Persons
- (X) Persons with Hearing Impairment
- (✓) Persons with Intellectual Disabilities

2.c *Responsible Agency* : Professionals for Autism Foundation (PAF)

2.d *Project Site* : NCR: Metro Manila (BF Homes, Paranaque)

3.

3.a *Content of Activities*

Project Activity : **Livelihood Training for the Disabled**

DAP Grant : **PhP 100,000**

Project Description :

The project aims to provide equipment and tools to facilitate the livelihood trainings of the 25 cooperative members. These trainings will include Basic Consumer Electronics, Reflexology and Massage, Braille Lessons, and Dressmaking. These will be conducted by the officers of the cooperative through the assistance of TESD and DSWD. The beneficiaries will then be provided employment through the cooperative's Electronics and Reflexology Clinic. DAP grant will be used to purchase electronic equipment and other braille instruments.

3.b *Target Groups*

(✓) Physically Disabled Persons

(✓) Visually Disabled Persons

(✓) Persons with Hearing Impairment

(✓) Persons with Intellectual Disabilities

3.c *Agency Responsible* : **Skilled Workers with Disability MPC**

3.d *Project Site* : **Region III: Pampanga (Sto. Tomas)**

4.

4.a *Content of Activities*

Project Activity : **Equipment for Cafe and Mini-Hotel**

DAP Grant : **PhP 112,342**

Project Description :

IDEA has been providing housing, food, basic medical care and staff supervision to forty-eight (48) young, hearing-impaired girls and boys. IDEA generates profits through its existing cafe and mini-hotel to sustain this form of assistance. Requested DAP funds will be used to purchase additional cooking and silverware utensils. The additional equipment is expected to increase profits. As counterpart, IDEA will shoulder administrative and operational expenses.

4.b *Target Groups*

(X) Physically Disabled Persons

(X) Visually Disabled Persons

(✓) Persons with Hearing Impairment

(X) Persons with Intellectual Disabilities

4.c *Agency Responsible* : **International Deaf Education Association (IDEA)**

4.d *Project Site* : **Region VII: Bohol (Jagna)**

SUPPORTED UNDER THE SMALL ACTIVITIES SCHEME (SAS)

5.

5.a *Content of Activities*

Title : Training Program for Parents and Teacher on the Education of Autistic Children
Duration : 18 months
Target : 22 faculty and 110 families
Total Cost : AUD 90,926.00

Project Description:

The project aims to develop a cadre of teachers and parents in the pilot sites who understand autism and are able to implement intervention programs to educate autistic children; to assist parents of autistic children wanting to set up and organise special education schools for their children in their own locality; and, to facilitate a rational convergence of the programs of the Departments of Health, of Education Culture and Sports, of Social Welfare and Development and of Interior and Local Government.

5.b *Target Groups*

Physically Disabled Persons
 Visually Disabled Persons
 Persons with Hearing Impairment
 Persons with Intellectual Disabilities

5.c *Agency Responsible* : Cahbriba Alternative School Foundation (CASF)

5.d *Project Site* : Mindanao (Cagayan de Oro, Cotabato, Davao, General Santos and Butuan Cities); Visayas (Cebu and Tacloban Cities); Luzon (Baguio, Batangas and Bicol Cities)

LIST OF PROECTS FOR THE WELFARE OF DISABLED PERSONS SUPPORTED
UNDER THE PHILIPPINES AUSTRALIA COMMUNITY ASSISTANCE PROGRAM

NGO	Tahanang Walang Hagdanan
Project Title	Employment Opportunities Year I - Metal Craft
PRIMARY TYPE	Income & Employment Generation
SECONDARY TYPE	Enterprise Development
LOCATION	Cainta, Rizal
BENEFICIARIES2	Handicapped/Orphans
GRANT APPROVED	619,000.00
PROJECT STATUS	Completed
DESCRIPTION	The main product of the Metalcraft Department of wheelchair although it is a limited market, TWH wheelchairs are becoming more popular because of its monopoly in designs and durability. Aside from wheelchairs, it is also planning to produce other metal products such as metal furniture and window grills.
NGO	Tahanang Walang Hagdanan
Project Title	Employment Opportunities Year II - Needlecraft
PRIMARY TYPE	Income & Employment Generation
SECONDARY TYPE	Enterprise Development
LOCATION	Cainta, Rizal
BENEFICIARIES2	Handicapped/Orphans
GRANT APPROVED	309,600.00
PROJECT STATUS	Completed
DESCRIPTION	With existing machines from the previous grant, the Needlecraft Department was able to penetrate into garment business and is now busy with sub-contracted jobs from different garment traders and direct exporters. It is also producing stuffed toys and novelty items and doing packaging jobs such as packaging cards and medicine.
NGO	Tahanang Walang Hagdanan
Project Title	Employment Opportunities Year I - Woodcraft
PRIMARY TYPE	Income & Employment Generation
SECONDARY TYPE	Enterprise Development
LOCATION	Cainta, Rizal
BENEFICIARIES2	Handicapped/Orphans
GRANT APPROVED	432,400.00
PROJECT STATUS	Completed
DESCRIPTION	This department has been involved in mass production of Knife blocks and other kitchen wares for export and is regularly supplying local department stores.

NGO Tahasang Walang Hagdanan

Project Title Employment Opportunities Year II - Agrilivestock

PRIMARY TYPE Income & Employment Generation

SECONDARY TYPE Enterprise Development

LOCATION Cainta, Rizal

BENEFICIARIES2 Handicapped/Orphans

GRANT APPROVED 139,000.00

PROJECT STATUS Completed

DESCRIPTION Poultry and a piggery are being maintained at the TWH compound meat and pork is sold to the disabled at subsidised prices.

NGO Tahasang Walang Hagdanan

Project Title Employment for Disabled Year I - Agri-Livestock

PRIMARY TYPE Income & Employment Generation

SECONDARY TYPE Enterprise Development

LOCATION Cainta, Rizal

BENEFICIARIES2 Handicapped/Orphans

GRANT APPROVED 198,000.00

PROJECT STATUS Completed

DESCRIPTION The project is a continuation of a previously PACAP assisted project which provides assistance and rehabilitative support to paraplegics and the seriously disabled by providing employment opportunities and skills and entrepreneurship training.

NGO Tahasang Walang Hagdanan

Project Title Employment for Disabled Year I - Needlecraft

PRIMARY TYPE Income & Employment Generation

SECONDARY TYPE Enterprise Development

LOCATION Cainta, Rizal

BENEFICIARIES2 Handicapped/Orphans

GRANT APPROVED 263,000.00

PROJECT STATUS Completed

DESCRIPTION The project is a continuation of a previously PACAP assisted project which provides assistance and rehabilitative support to paraplegics and the seriously disabled by providing employment opportunities and skills and entrepreneurship training.

NGO Tahasang Walang Hagdanan

Project Title Employment for Disabled Year 1 - Woodcraft

PRIMARY TYPE Income & Employment Generation

SECONDARY TYPE Enterprise Development

LOCATION Cainta, Rizal

BENEFICIARIES2 Handicapped/Orphans

GRANT APPROVED 943,000.00

PROJECT STATUS Completed

DESCRIPTION The project is a continuation of a previously PACAP assisted project which provides assistance and rehabilitative support to paraplegics and the seriously disabled by providing employment opportunities and skills and entrepreneurship training.

NGO Tahasang Walang Hagdanan

Project Title Computer Encoding Center for People with Disability

PRIMARY TYPE Income & Employment Generation

SECONDARY TYPE Enterprise Development

LOCATION Cainta, Rizal

BENEFICIARIES2 Handicapped/Orphans

GRANT APPROVED 675,600.00

PROJECT STATUS Completed

DESCRIPTION The project is setting up a computer encoding enterprise within the Tahasang Walang Hagdanan (TWH) premises to provide work opportunities for 20 persons with paraplegic and other orthopedic disabilities living inside TWH as well as in barangays located near the TWH compound in Cainta, Rizal. Its overall goal is to use and improve the computer skills and expertise of TWH clients who have been beneficiaries of the TWH Education Program (secondary and tertiary education support) as well as other disabled persons who have the potential and the desire to acquire higher levels of employment.

NGO Tahasang Walang Hagdanan

Project Title Production Workshops for Delf-Reliance

PRIMARY TYPE Income & Employment Generation

SECONDARY TYPE Enterprise Development

LOCATION Cainta, Rizal

BENEFICIARIES2 Handicapped/Orphans

GRANT APPROVED 1,456,121.00

PROJECT STATUS Completed

DESCRIPTION The project consists of the following components: wheelchair repair and manufacturing; small-scale agri-livestock project; and embroidery and needlecraft. The project shall not only provide skills and vocational training to the disabled but also enable the Center to generate much-needed funds to sustain its operations.

別添2 : The World Bankによる活動状況

PHILIPPINES
LIST OF PROJECTS IN THE FY99 PORTFOLIO
(As of July 1, 1999)

Loan/Grant Number	Project	Local Grant/Grant Amount (US\$ m)	Effective Date	Closing Date		Project Description	Project Contact Person	Task Team Leader	RHP Desk no
				Original	Revised				
Human Development Sector									
3852	Women's Health & Safe Motherhood	18.00	Jul-95	Dec-01		The project's overall objective is to improve the health status of women with particular focus on women of reproductive age, and thereby support the Government's long term goals of reducing fertility, female morbidity and maternal mortality.	Ms. Virginia Aia Project Manager DOH Phone: 711-46655 Fax: 711-4795	Allina Hill	N Sia Inay R Odepass
2392	Second Vocational Training	36.00	Dec-92	Dec-97	Dec-99	The project will strengthen the institutional capabilities of TESDA in policy formulation, planning, management, research and evaluation of non-formal vocational training and employment services; improve training quality and cost recovery.	Mr. Jose Lacson Dir Gen./Project Manager TESDA Phone: 893-2454 Fax: 816-2480	Ongorn Keyul	N Sia Inay R Odepass
2505	Urban Health & Nutrition	70.00	Apr-94	Dec-00		The project will improve the health and nutrition status of slum dwellers in the project cities and build capacities of LGUs to plan, finance and implement cost-effective health and nutrition programs.	Dr. Juan Perez Project Manager DOH Phone: 781-8917 Fax: 743-1829	Jaysiree Balachandrar	N Sia Inay R Odepass
4108	Third Elementary Education	113.40	Jul-97	Jun-04		A specific investment project which builds the institutional capacity of DECS to manage the change process associated with TEEP and improve learning achievements, completion rates and access to quality elementary education in 26 poor provinces.	Ms. Leticia Luns- Santos Project Manager DECS Phone: 633-9347 Fax: 637-4346	Jaysiree Balachandrar	N Sia Inay R Odepass
4301	Early Childhood Development	19.00	Sep-98	Dec-04		The project will assist Government improve the health, nutritional, educational and psycho-social developmental status of pre-school children; improve parents' capacity to understand the needs of their children and take action to meet them.	Ms. Elena Carabelle Project Coordinator DSWD Phone: 931-8172 Fax: 931-8172	Adrian Hill	N Sia Inay R Odepass
	Sub-total	256.40							
	Rural Development & Environment Sector								
3539/39/4Q	Rural Finance II	150.00	Apr-96	Dec-98	Jun-02	Building on the achievements of the first rural finance project, this project will expand the volume of medium and long term commercial credit to agriculture and rural development in the country through Landbank, rural cooperatives and rural banks.	Ms. Naniya Verjan Vice President, Program Lending Dept., Landbank Phone: 814-0154 Fax: 817-4615	Alicia Church	N Sia Inay

Reported Number	Project	Term / Grant / Loan Amount (received amount) US\$ m.	Effective Date	Closing Date		Project Description	Project Contact Person	Task Team Leader	RMP Back-up
				Original	Revised				
3507	Irrigation Operations Support II	51.30	Oct-93	Jun-99	Dec-04	The project supports sustainable improvement in the operational efficiency of the national irrigation systems, thereby increasing agricultural production, expanding small farmers' income and rural employment opportunities.	Mr. Edilberto Payawal Project Director MIA Phone: 921-4873 Fax: 921-4873	Syed Husan	M. Belizario D. Aumentado
3204	Small Coconut Farms Development	121.80 (0.85)	Nov-90	Jun-96	Dec-99	The project constitutes the first phase of a long term small coconut farms development and productivity improvement program supported by the necessary infrastructure and strengthened technical and support services.	Mr. Eduardo Escuela Administrator Phil. Coconut Authority Phone: 927-8705 Fax: 921-6173	Syed Husan	C. Figueroa Geroy D. Aumentado
3251	Communal Irrigation Development II	46.20 (6.56)	Jan-91	Dec-96	Dec-99	The project will provide for continuity and improvements in the implementation of the on-going communal irrigation development efforts; rehabilitate and expand existing communal irrigation services.	Mr. Rodrigo de Cuzman Project Director MIA Phone: 926-3144 Fax: 927-7094	Syed Husan	M. Belizario D. Aumentado
3350	Environment and Natural Resources Sector Adjustment Program	224.00	Oct-91	Dec-98	Dec-99	This program combines policy and institutional reform and a redirection of administrative attention and effort to preserve what remains of the biological diversity of the country and where these resources have been destroyed, to reestablish them.	Mr. Romeo Masia Project Director DENR Phone: 928-9737 Fax: 928-9737	Rafael Ratur	C. Figueroa Geroy D. Aumentado
4109	Agrarian Reform Communities Development	50.00	Apr-97	Dec-03		The project would assist the Government in strengthening farmer organizations in Agrarian Reform Communities to plan and undertake development activities which would raise farmers' incomes and provide further opportunities for sustainable growth.	Mr. Adelberto Darnel Project Director DAR Phone: 371-4337 Fax: 371-0345	Arte Chupak	T. Ouhonay D. Aumentado
4295	Community-Based Resource Management	50.00	Oct-98	Jun-04		The project is expected to reduce rural poverty and environmental degradation through support for locally generated and implemented natural resource management projects.	Ms. Helena Hecobian Project Director DOF Phone: 523-2306515 Fax: 523-3230	R. Anzon	C. Figueroa Geroy D. Aumentado
4300	SZOPAD Social Fund	10.00	Jul-98	Dec-01		The project will facilitate the Govt's efforts to implement the development provisions of the peace agreement signed on September 2, 1996 between the Government of the Philippines and the MNLF through speedy financing of local development initiatives.	Mr. Edward Lim Executive Director 71 Estrada St. Bgy. Teason, Zamboanga City Tellex: 06521 991- 9206	Wahid Zanout	R. Anzon T. Ouhonay C. Figueroa Geroy D. Aumentado
4413	Third Rural Finance	150.00	May-99	Jun-05		The project will assist in financing the development of productive resources and facilities in the rural areas of the Philippines and strengthen the institutional capacity of Land Bank and the People's Credit and Finance Corp. as wholesale providers of financial services in said rural areas.	Mrs. Nemia Veran Vice President Land Bank of the Philippines Phone 814-0154 Fax 817 4619	Arte Chupak	R. Anzon

Project Number	Project	User / Credit / Grant Amount (Sanctified amount)	Effective Date	Closing Date		Project Description	Project Contact Person	Task Team Leader	RMP Back up
				Original	Revised				
4110	Water Resources Development	58.00	Mar-97	Dec-02		The project will assist Government in developing an appropriate policy and institutional framework to improve water resources planning, development and management in the country, initiating an integrated and comprehensive approach to watershed management.	Mr. Ercelfo Domingo Project Director NILA Phone: 926-2795 Fax: 926-2946	Syed Husain	M. Belzard O. Aumentado
Sub-total		743.30							
Infrastructure/Urban Sector									
3455	Municipal Development III	68.00	Aug-92	Jun-99	Dec-00	The project will assist LGUs expand and upgrade their infrastructure, services and facilities by strengthening the Govt's institutional framework for assisting LGUs; strengthen LGUs' investment planning, financing and implementation capacity.	Mr. Jose Ong Project Director PREMIUMED- MANKINITE Phone: 926-5319 Fax: 926-5319	Thomas Zearley	L. Leaque/ R. Manuel
3430	Highway Management	150.00	Jun-92	Jun-99	Jun-00	The project will support Government's infrastructure-related policy reforms to improve the quality and timeliness of road works and ongoing measures to develop a sustainable institutional capability to manage the network.	Mr. Danilo Triano Project Director DPWH Phone: 527-2605 Fax: 527-2607	Dennis Raballulle	R. Manuel
4227/8	Water District Development	56.80 (18.20)	NYE	Jun-03		The project will help participating LGUs and water districts plan and implement sewerage and sanitation investments based on their residents' wishes and willingness to pay and assist the Government in developing transparent regulatory mechanisms.	Ms. Nanna Veran Vice President, Program Landing Dept., Landbank Phone: 814-0124 Fax: 817-4619	VJ Jagannathan	K. Jacobus/ Vales
4019	Manila Second Sewerage	57.00 (9.00)	Mar-98	Dec-01	Jun-03	The project will help Government improve the quality of sanitation services and enable the Metropolitan Waterworks and Sewerage System to expand its septage management program and reduce pollution in Metro Manila waterage.	Ms. Macra Cruz Project Director MWSS Phone: 922-2508 Fax: 921-2887	D. Howarth	C. Vales
4422	Local Govt. Urban Water and Sanitation	23.30	NYE	Sep-02		The project will assist selected LGUs to provide sustainable water and sanitation services and strengthen their institutional and technical capacity to manage water utilities.	Program Coordinator DILG A. Francisco Gold Condominium II EDSA Quezon City Tel. No. 925-0362 Cell. No. 434-2035	VJ Jagannathan	K. Jacobus/ Belzard
4445	Local Govt. Finance & Dev.	100.00	May-99	Jun-06		The project will assist participating LGUs in expanding and upgrading their basic infrastructure services and facilities and in strengthening their capacities in municipal governance, investment planning, revenue generation and proj. development and implementation.	Undersec. Lily Gruba Dept. of Finance G/F DOF Bldg OSP Complex, Manila Tel. No. 526-4648 Fax No. 526-2298	Thomas Zearley	J. Leaque/ R. Manuel

Loan/Grant Number	Project	Loan/Grant/Grant Amount (Estimated amount)	Effective Date	Closing Date		Project Description	Project Contact Person	Task Team Leader	RHP Back-up
				Original	Revised				
PREM Sector									
3503	Tax Computerization	63.00	Dec-93	Jun-99	Dec-99	The project will support improvements in tax administration by providing technical assistance, staff training, hardware, software and priority equipment and facilities making tax administration more efficient and accelerate the process and collection.	Ms. Emma Rosquetta Project Director Bureau of Customs Phone: 527-1935 Fax: 527-4509	S. Melhen	J. Barbosa C. Vales
Financial Sector									
4412	Banking Sector Reform Loan	300.00	Dec-98	Jun-00		The Loan will support the Philippines' banking sector reform program, whose goal is to strengthen the banking system and enable it to better withstand current difficulties and future shocks.	Mr. Alberto Reyes Deputy Governor Bangko Sentral ng Pilipinas Tel. 536-0056 Fax 536-0065	S. Dhar	M. Benjamin
	<i>Sub-total</i>	<i>363.00</i>							
Global Environment Trust Fund/Montreal Protocol									
TF 28699	Conservation of Priority Protected Areas (GEF)	20.00	Oct-94	Jun-02		Funded through a Grant provided by the Global Environment Facility, the project will assist the Govt. through the NGOs for Integrated Protected Areas Inc. (NIPA) in the protection of the environment and promotion of environmentally sound econ. devt.	Mr. Igal Luna Dr. Tony Marilla CEPAP-NIPA Tel. 924-8566	Susan Shon	T. Oubonsey C. Figueroa C. Gervy D. Aumentado
	Leyte-Luzon Geothermal (GEF)	30.00	Mar-95	Mar-99		The Grant will compensate Govt. for choosing the Leyte-Luzon Project which is not the least cost expansion project but which provide considerable environmental benefits compared to the "least cost solution", i.e. imported coal-fired power plants.	Mr. Fidel Correa Project Director NIPC Tel. 426-3912 Fax 426-3911	Sandra Wan Shuang Snum	R. Manuel
TF20931	Ozone Depletion Substance (Montreal Protocol)	15.05	Oct-94	Jun-98	Jun-00	The project will assist the Phils. to implement an accelerated ODS phaseout program by providing financing for priority subprojects and strengthening executing agencies.	Mrs. Nenia Veran Vice Pres., Land Bank Tel. No. 814-0154 Mr. Jayson Lao Proj. Mgr., DENR Tel./fax 928-5675	Lily Uy Hale	C. Vales
	<i>Sub-total</i>	<i>65.05</i>							
	GRAND TOTAL	2,079.05							

Note: N.Y.E. Not yet Effective

5. 当該国での回収資料一覧

別添1：国立知的障害児者センター（フィリピン）

National Center for the Mentally Retarded (Elsie Gaches Village)

別添2：Taman Sinar Harapan, Kuala Kubu Bharu（マレーシア）

別添3：EIP（早期指導プログラム）センター（マレーシア）

Early Intervention Program (EIP) Centre

別添4：サラワク州社会福祉協議会(NGO)（マレーシア）

Social Welfare Council of Sarawak

別添5：SPECIAL EDUCATION IN MALAYSIA（マレーシア）

別添6：同分野青年海外協力隊員による報告（3ヶ月目、6ヶ月目、12ヶ月目）